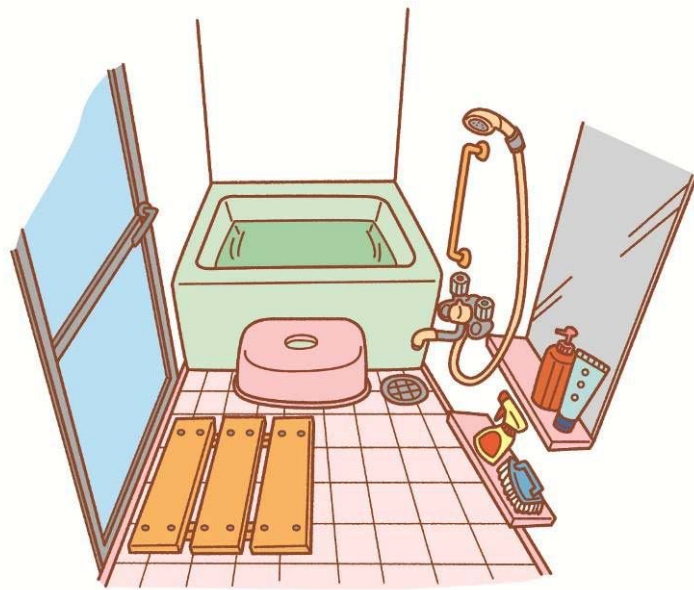


**平成 22 年度 ヒヤリ・ハット調査**  
**「浴室用品等による危険」**  
(インターネットアンケート)



平成23年 5月

東京都生活文化局消費生活部生活安全課



# 目次

1. 調査目的.....	1
2. 調査概要.....	1
(1) 調査対象.....	1
(2) 調査期間.....	1
(3) 調査方法.....	1
(4) 調査内容.....	1
(5) 回答者の属性.....	1
(6) 集計・分析にあたって.....	1
3. 調査結果.....	2
(1) 自宅風呂場のマット・スノコによるヒヤリ・ハット及び危害について.....	2
(2) 自宅風呂場の入浴剤によるヒヤリ・ハット及び危害について.....	10
(3) 自宅風呂場の子供のヒヤリ・ハット及び危害について.....	18
(4) 石鹼・洗剤等によるヒヤリ・ハット及び危害について.....	28
(5) 風呂場でのアロマキャンドルによるヒヤリ・ハット及び危害について.....	43
4. まとめ.....	51
5. 結果の活用.....	51



## 1. 調査目的

この調査は、浴室・洗面所・トイレにおける事故の防止対策を図るための資料とするために、浴室等における危害及びヒヤリ・ハット事例を把握すること及び消費者の要望・意見等を収集することを目的に実施した。

## 2. 調査概要

### (1) 調査対象

都内に在住する満 20 歳以上の男女 3,300 人

### (2) 調査期間

平成 22 年 12 月 16 日(木)～12 月 20 日(月)

### (3) 調査方法

WEB 調査

### (4) 調査内容

本調査では、以下の 5 つの内容ごとに、「ヒヤリ・ハットした」、「危害にあった」経験の有無、医療機関受診状況、経験時の年齢・性別、ヒヤリ・ハットや危害の状況等について調査した。なお、ヒヤリ・ハットや危害を複数経験している場合には、もっともケガ(ケガになる恐れ)が大きかった事例を記述することとした。

ア. 自宅風呂場でのマット・スノコによるヒヤリ・ハット及び危害について

イ. 自宅風呂場での入浴剤によるヒヤリ・ハット及び危害について

ウ. 自宅風呂場での子供のヒヤリ・ハット及び危害について

エ. 石鹸・洗剤等によるヒヤリ・ハット及び危害について

オ. 自宅風呂場でのアロマキャンドルの使用によるヒヤリ・ハット及び危害について

### (5) 回答者の属性

ア. 性別

回答者の性別は「男性」50.0%、「女性」50.0%となっている。

イ. 年代

回答者の年代は「20代」、「30代」、「40代」、「50代」がそれぞれ 22.7%、「60代以上」が 9.1%となっている。

### (6) 集計・分析にあたって

ア. 回答比率(%)は、小数点第 2 位を四捨五入して算出した。したがって、回答比率を合計しても、100%にならない場合がある。

イ. 設問によっては、複数回答の結果、回答比率の合計が 100%を超える場合がある。

ウ. グラフに表記される「n=\*」(\*は数字)は、対象の母数を表す。

グラフや表の中での選択肢の文章が長い場合は、簡略化して表現しているため、アンケート調査票の文章とは一致していない場合がある。

### 3. 調査結果

#### (1) 自宅風呂場のマット・スノコによるヒヤリ・ハット及び危害について

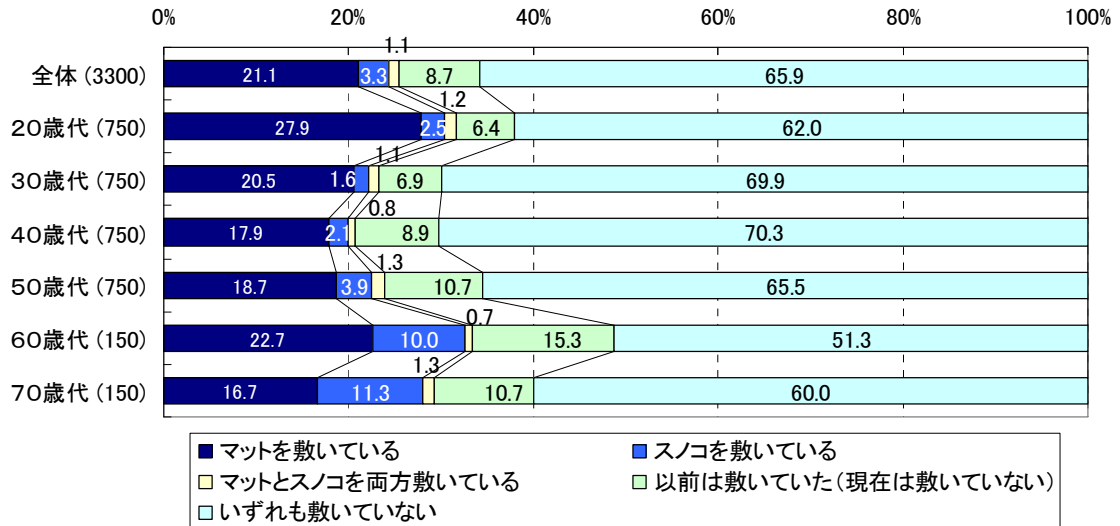
##### ア. 自宅風呂場にマット・スノコの使用の有無

(全体)

自宅風呂場でのマット・スノコの有無については、「いずれも敷いていない」が65.9%で最も多く、「敷いている」が25.5%（「マットのみ21.1%」「スノコのみ3.3%」「両方1.1%」の合計）、「以前は敷いていた（現在は敷いていない）」が8.7%であった。

(年代別)

「マット等を敷いている」は20歳代が31.6%で最も多く、30・40・50歳代では20%台前半となる。一方で、「スノコを敷いている」は60・70歳代で10%以上と他の年代よりも利用率が高い傾向がある。



イ. 自宅風呂場にマット・スノコを敷く目的（複数回答）

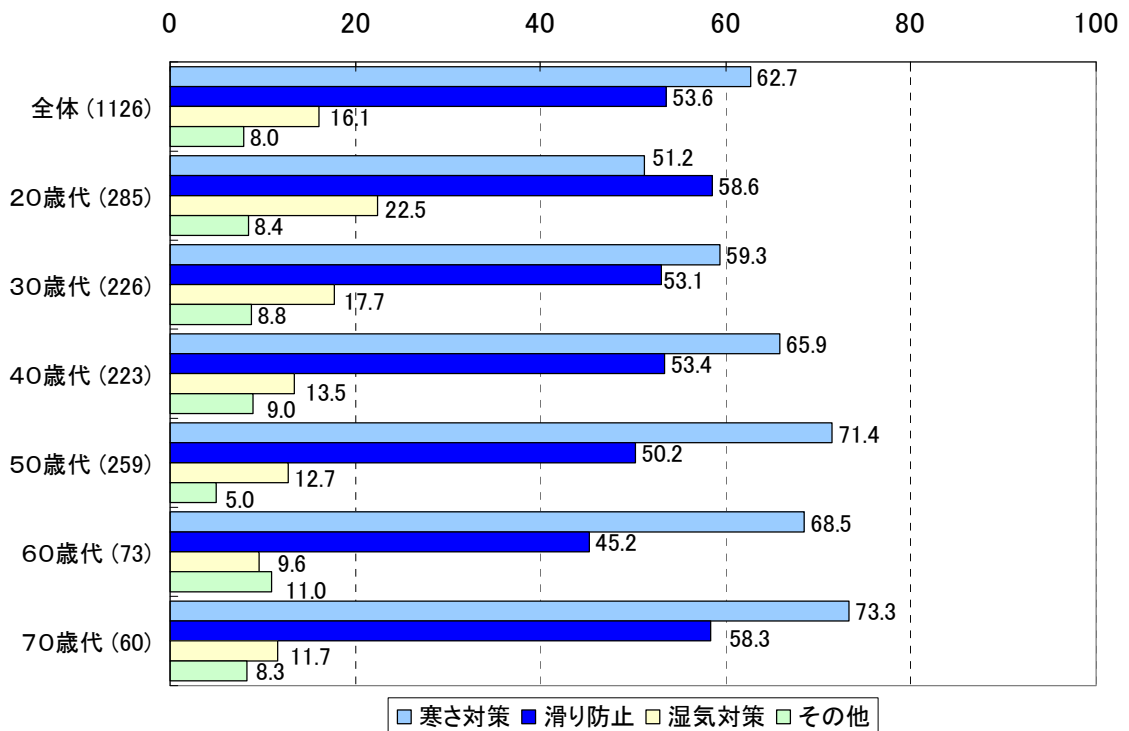
回答者はマット・スノコを「敷いている」「以前は敷いていた」とした 1126 名（全回答者の 34.1%）

（全体）

前問で「敷いている」「以前は敷いていた」とした回答者にマット・スノコに期待する（した）効果を聞いたところ、「寒さ対策」を挙げた回答者が 62.7%、「滑り防止」が 53.6%で、この 2 つがマット・スノコを敷く 2 大目的となっている。これら以外を挙げた回答者は少なく、「湿気対策」が 16.1%、「その他」が 8.0%であった。

（年代別）

「寒さ対策」を挙げた回答者は年代が上がるにつれて増え、「滑り防止」を挙げた回答者は逆に年代が上がるにつれて少なくなる。その結果、20 歳代では「滑り防止」を挙げた回答者が「寒さ対策」を挙げた回答者を上回っているが、30・40・50 歳代ではそれが逆転して「寒さ対策」が「滑り防止」を上回っている。



### ウ. ヒヤリ・ハット/危害経験の有無

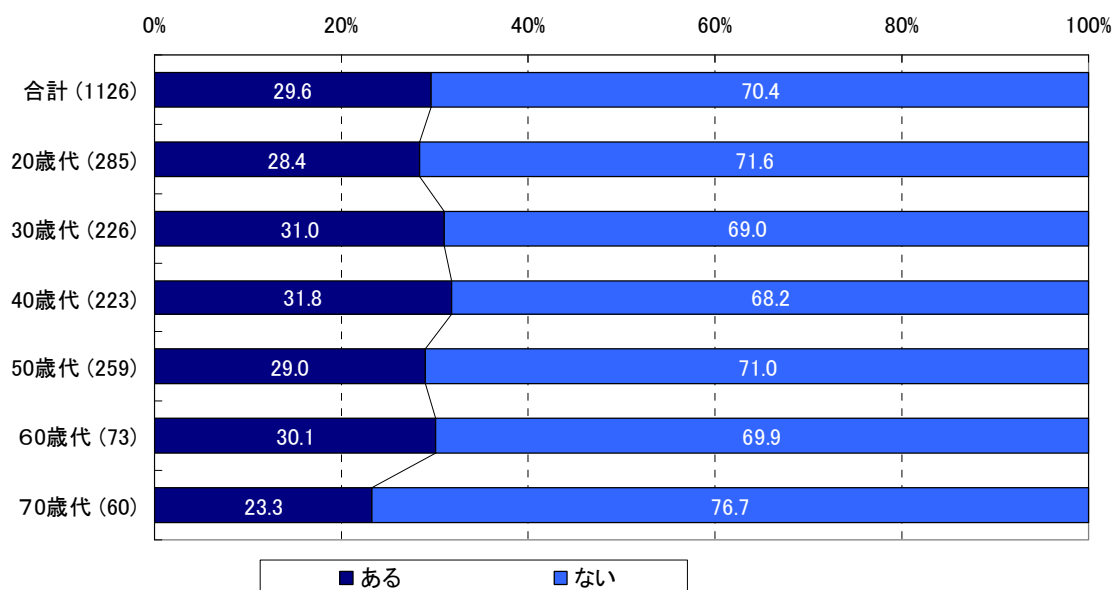
回答者はマット・スノコを「敷いている」「以前は敷いていた」とした1126名(全回答者の34.1%)

(全体)

自宅風呂場でのマット・スノコを原因とする「滑り」「転倒」等のヒヤリ・ハット/危害経験の有無については、「ある」は29.6%、「ない」が70.4%であった。

(年代別)

「ある」は全ての年代において30%前後を占めており、年代による差は見受けられない。





エ. ヒヤリ・ハット/危害経験をした時の年齢

回答者はマット・スノコでのヒヤリ・ハット/危害経験があったとした 333 名（全回答者の 10.1%）

（全体）

自宅風呂場でマット・スノコを原因とする「滑り」「転倒」等のヒヤリ・ハット/危害経験をしたときの年齢を 5 歳階級別の年齢帯で聞いたが、「5～9 歳」「10～14 歳」「15～19 歳」がいずれも 10%以上を占めて最も多く、20～49 歳までの各 5 歳階級帯がそれぞれ 6～9%前後を占め、50 歳以上の階級帯は 1～4%前後であった。

（注）但し、各年代でほぼ同数の回答者が回答しているものの、20 歳代回答者にとっては経験時年齢の回答対象は「0～29 歳」までであるが、50 歳代回答者では経験時年齢の回答対象は「0～59 歳」まで広がる。従って、経験時年齢としては若い年齢帯の方が回答対象にできる回答者母数は多くなるので、そのことも経験時の年齢として若い年齢帯の割合が多くなっている背景にはあると思われる。

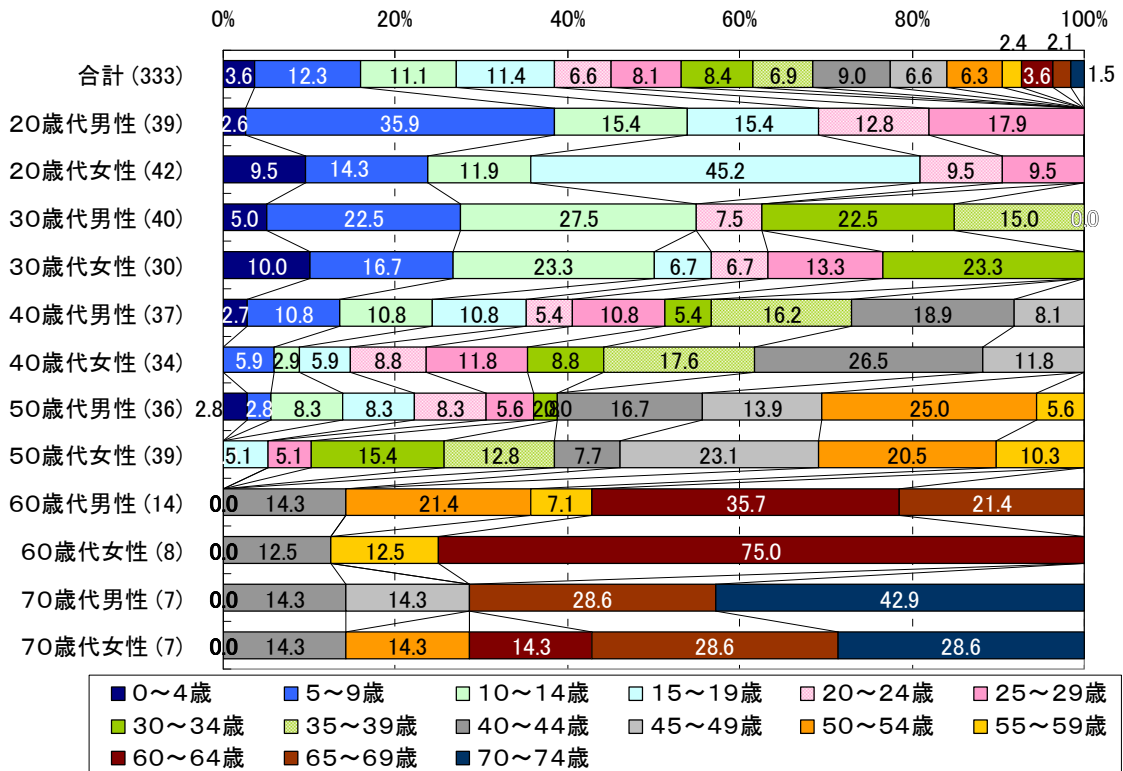
これ以降の各テーマにおけるヒヤリ・ハット/危害経験をしたときの年齢の集計結果についても上記の回答背景に留意する必要がある。

（年代別）

ヒヤリ・ハット/危害経験時の年齢として、20 歳代では「15～19 歳」、30 歳代では「10～14 歳」と回答者自身の年代より若い時の年齢帯が最も多く挙げられたが、40 歳代では「40～44 歳」、50 歳代では「50～54 歳」と、それぞれ回答者自身の現在の年代が最も多く挙げられた。

また、経験時年齢として回答者が属する年代を挙げた割合を見ると、20 歳代では 24.7%（「20～24 歳 11.1%」「25～29 歳 13.6%」の合計）であるが、30 歳代以上では同割合はいずれも 30%を超えている。

マット・スノコによるヒヤリ・ハット/危害経験は、20 歳代では過去の子供の頃の経験、30～70 歳代になると現在の経験としての意味合いが強くなるとも言える。



オ. ヒヤリ・ハット/危害の状況

回答者はマット・スノコでのヒヤリ・ハット/危害経験があったとした 333 名（全回答者の 10.1%）

（全体）

自宅風呂場でのマット・スノコを原因とする「滑り」「転倒」等のヒヤリ・ハット/危害の状況としては、「ケガをした」は 15.8%、「ケガはしなかった」が 84.2%であった。

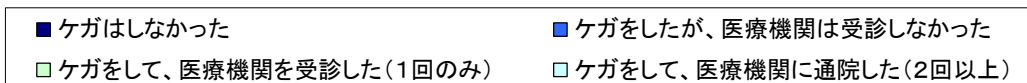
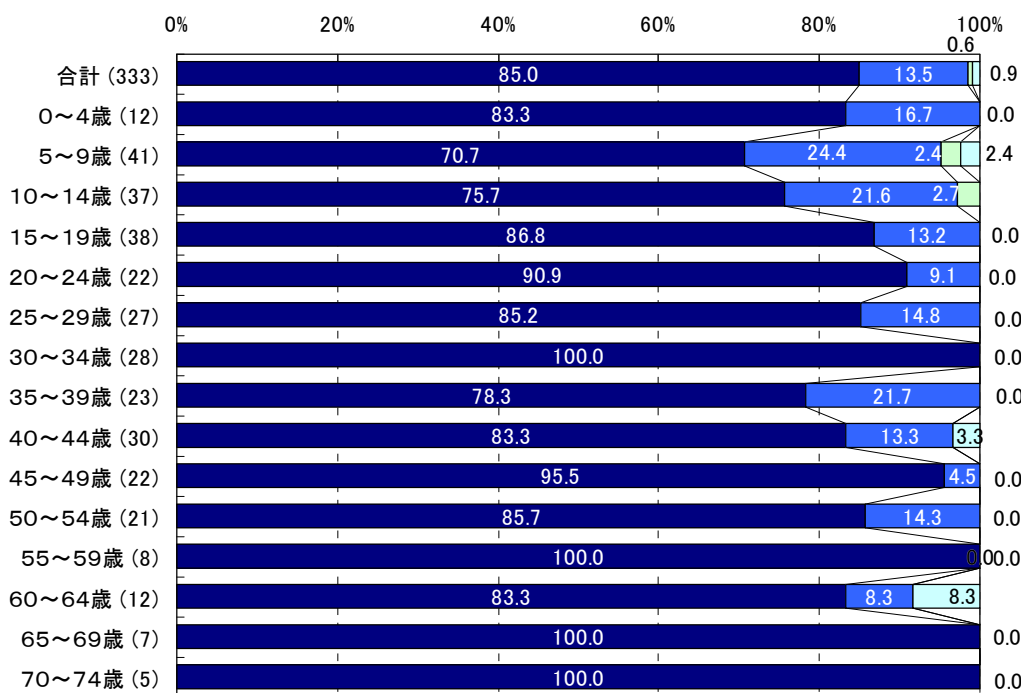
「ケガをした」15.8%（47 名）の危害レベル別内訳を見ると、「医療機関を受診した」は 1.0%（3 名）で、「医療機関は受診しなかった」が 14.8%（44 名）であった。

「医療機関を受診した」1.0%（3 名）の内訳は、「医療機関を受診（1 回）」が 0.7%（2 名）、「医療機関に通院（2 回以上）」が 0.3%（1 名）であった。

（経験時の年齢帯別）

経験時の年齢帯別に状況を見ると、「ケガをした」は経験時年齢「5～9 歳」の場合が 29.3%で最も多く、次に「10～14 歳」が 24.3%で、いずれも全体水準（15.8%）に比べてかなり多い。さらに、「医療機関を受診した」とした 3 名も全てこの年齢帯に含まれており、経験時年齢 15 歳以上では「医療機関を受診した」は出現していない。

上記年齢帯以外では、「35～39 歳」も 21.7%で多いが、それ以外の経験時年齢帯では「ケガをした」は概ね 15%前後もしくはそれより少ない。



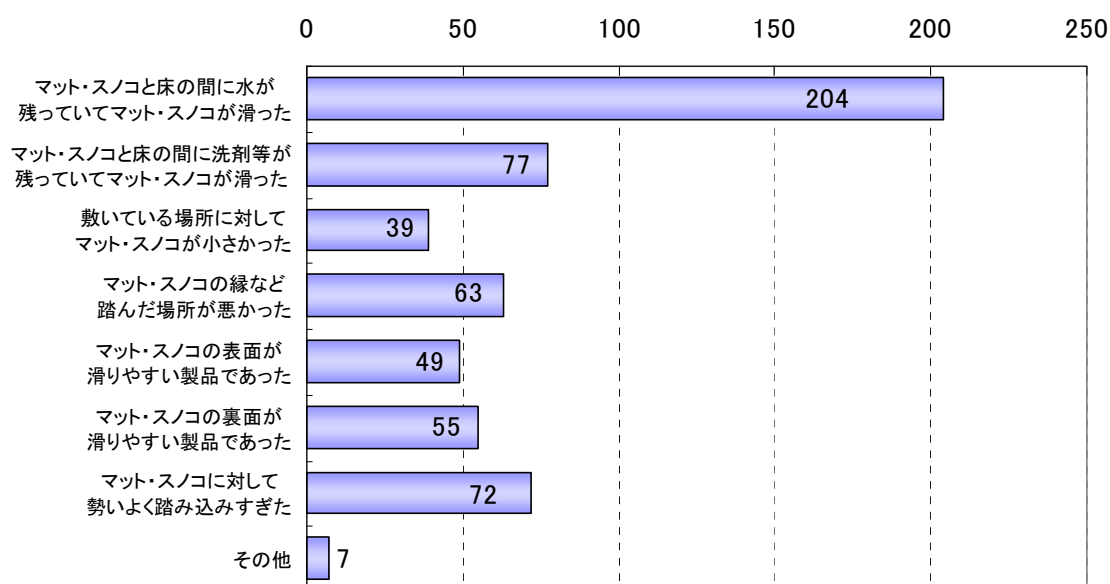
### カ. ヒヤリ・ハット / 危害の原因 (複数回答)

回答者はマット・スノコでのヒヤリ・ハット / 危害経験があったとした 333 名 (全回答者の 10.1%)

(全体)

自宅風呂場でのマット・スノコを原因とする「滑り」「転倒」等のヒヤリ・ハット / 危害の原因としては、「マット・スノコと床の間に水が残っていてマット・スノコが滑った」を挙げた回答者が 61% を占めて最も多い。

上記以外を原因としてあげた回答者は少なくなるが、20%前後で「マット・スノコと床の間に洗剤が残っていてマット・スノコが滑った」(23.1%)、「マット・スノコに対して勢いよく踏み込みすぎた」(21.6%)、「マット・スノコの縁など踏んだ場所が悪かった」(18.9%)が続き、15%前後で「マット・スノコの表面が滑りやすい製品であった」(16.5%)、「マット・スノコの裏面が滑りやすい製品であった」(14.7%)、「敷いている場所に対してマット・スノコが小さかった」(11.7%)が続く。



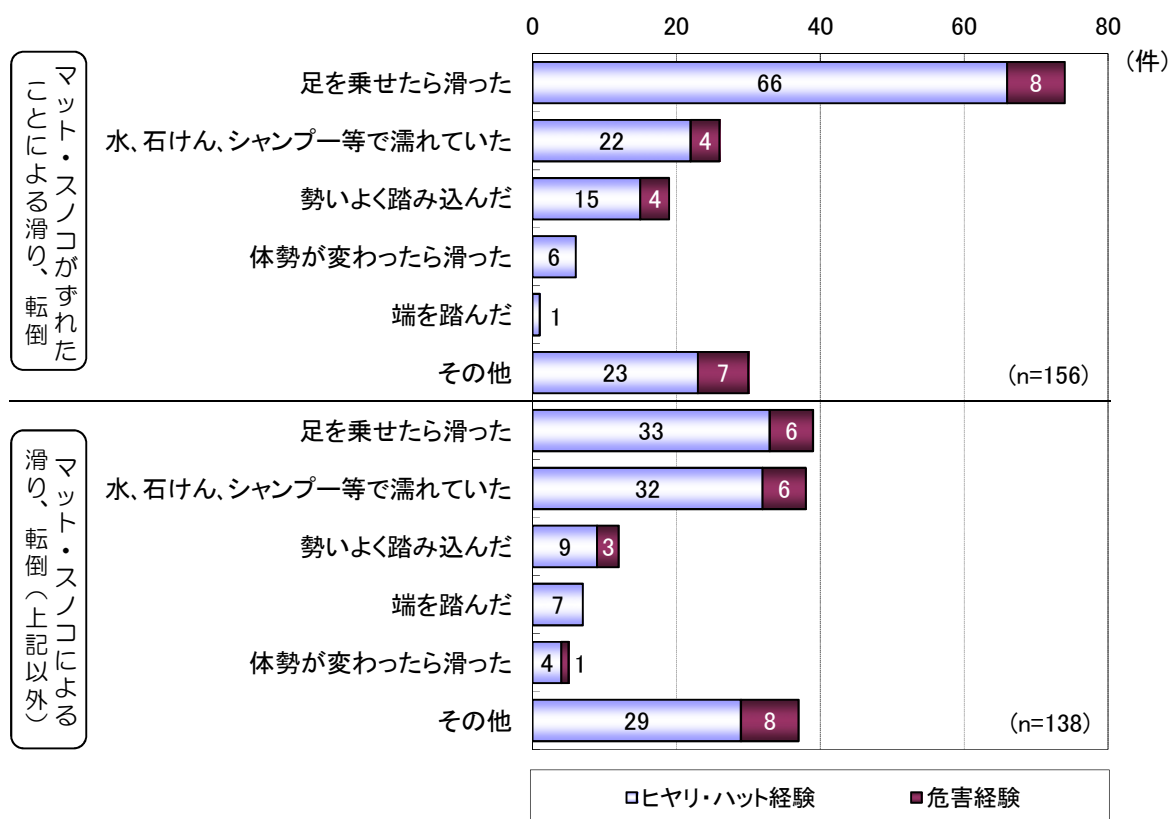
キ. ヒヤリ・ハット/危害経験時の状況（自由回答）

集計対象は、マットやスノコによる「滑り、転倒」のヒヤリ・ハット/危害経験に関する記述回答 294 件

マット・スノコ自体がずれたことにより一緒に足をとられた事例が 156 件、それ以外の事例は 138 件であった。

内容を分類すると、浴室に入ろうとして「マット・スノコに足を乗せたら滑った」事例が最も多かった。次いで、「水、石けん、シャンプー等でマットの表面や裏が濡れていた」、「勢いよく踏み込んだ」ときに滑った事例が多い。特に、子どもが走り込んで浴室に入ると滑りやすく、注意が必要である。「その他」としては「洗い場下のタイルが剥がれ、滑りやすくなっていた」などの事例がある。

風呂場でのマットやスノコによる「滑り、転倒」のヒヤリ・ハット/危害経験



主な事例 マット・スノコがずれたことによる滑り、転倒

項目	内容	経験時年齢	性別
足を乗せたら滑った	・風呂場のマットに足を踏み入れた途端マットがズれて自分もバランスを崩して転倒した。	5～9歳	女性
	・お風呂に入ろうとマットに足をかけた時マットがすべり、手を壁に押し付けたがその手も滑って転びそうになった。幸いまだ若かったので手首を傷めたただけでした。	25～29歳	女性
	・風呂に入る際、マットに足を乗せたらすべって足が前の方にいき、バランスを崩した。風呂場が狭かったので転倒には至らなかったが、壁に肘を打ち付けた。	25～29歳	女性
	・何時も通りただすのこに乗ったらすのこごと少しすべってしまったが、よろけただけで何ともありませんでした。大きなすのこだと洗うのが大変なので小さいのを三枚敷いていますが、やはり一枚が軽いのですべったのだと思います。	55～59歳	女性
水、石鹸、シャンプー等で濡れていた	・脱衣所から洗い場のマットの上に片足を乗けたら、マットが滑り、バランスを崩しそうになった。原因は、マット裏が、水アカ、髪の毛の付着により滑りやすくなっていた。	40～44歳	男性
	・トリートメントが床に残るととても滑りやすく、マットごとすべり転びそうになったが、転ばずにすんだ。以後、マットや床に残ったトリートメントをきちんと洗い流すように気をつけている。	15～19歳	女性
	・すのこに乗った時、下がぬれていたのに気づかずスノコごと背中から滑ってしまった。背中を強く打って痛かったが、シップを貼って寝たら治ったので医者には行かなかった。	35～39歳	女性
勢いよく踏み込んだ	・小さい頃だったので落ち着きがなく、小走り気味にマットの上に乗ってしまい、それによってマットがずれて転んだ。でも軽い打撲程度ですみました。それを機会にお風呂は危ないと自覚しました。	5～9歳	男性
	・冬場に床の冷たさを避けるため少し離れたマットにジャンプして飛び乗ったら滑ったが、サーフィンの様にバランスを取って転倒には至らず無事だった。	15～19歳	男性
	・床面が平面ではなく、中央部分でスノコが浮いたような状態であるにも係わらず、スノコの端にいつもよりも勢いよく乗った際に、スノコが滑り転倒しそうになったが、怪我はなかった。	45～49歳	男性
体勢が変わったら滑った	・浴槽に入る際に片足に力を入れたらマットがすべり転倒しそうになった。浴槽に体をぶつけたが大事には至らず医者には行っていない。	20～24歳	男性
その他	・洗い場下のタイルが剥がれ滑りやすくなっていたことに気がつかなかった。	20～24歳	男性

主な事例 マット・スノコによる滑り、転倒（上記以外）

項目	内容	経験時年齢	性別
足を乗せたら滑った	・子供が赤ちゃんのとき、子供を抱いていたので足元が見えないまま風呂場に入ったら滑って焦りましたが、なんとかバランスをとって親子ともに怪我はしなくて済みました。	30～34歳	女性
水、石鹸、シャンプー等で濡れていた	・洗い場のマットの上に石鹸やシャンプーが完全に流されてなかったのでそれを気づかず降りたらバランスを崩し肘を打ったが病院にはいかずに軽症で済んだ。	10～14歳	男性
	・足を洗った後、立ち上がろうとして、泡でマット上を滑って壁に頭をぶつけた。瘤が出来たが医者には行かなかった。	45～49歳	女性
	・斜めに足を踏み出し、水分が残ったマットに乗ったので、バランスを崩し、滑ってしまった。	50～54歳	女性
勢いよく踏み込んだ	・お風呂場から脱衣所へ20センチくらいの段差があり、勢いよくマットから直接降りたり乗ったりするとよくすべる。怪我はなし。	20～24歳	女性
端を踏んだ	・マットの端を踏んだら反対側が持ち上がってバランスを崩した	10～14歳	男性
体勢が変わったら滑った	・湯船に入ろうと片足をあげたら、マットのスポンジのバランスでよろけて、湯船の縁に手をついた。つかまった場所が悪ければ滑って転んでいた。	35～39歳	女性
その他	・子供の頃にマットで足を滑らせて浴室の扉のふちに頭を強打し切れて出血して病院に運ばれた	5～9歳	男性

## (2) 自宅風呂場の入浴剤によるヒヤリ・ハット及び危害について

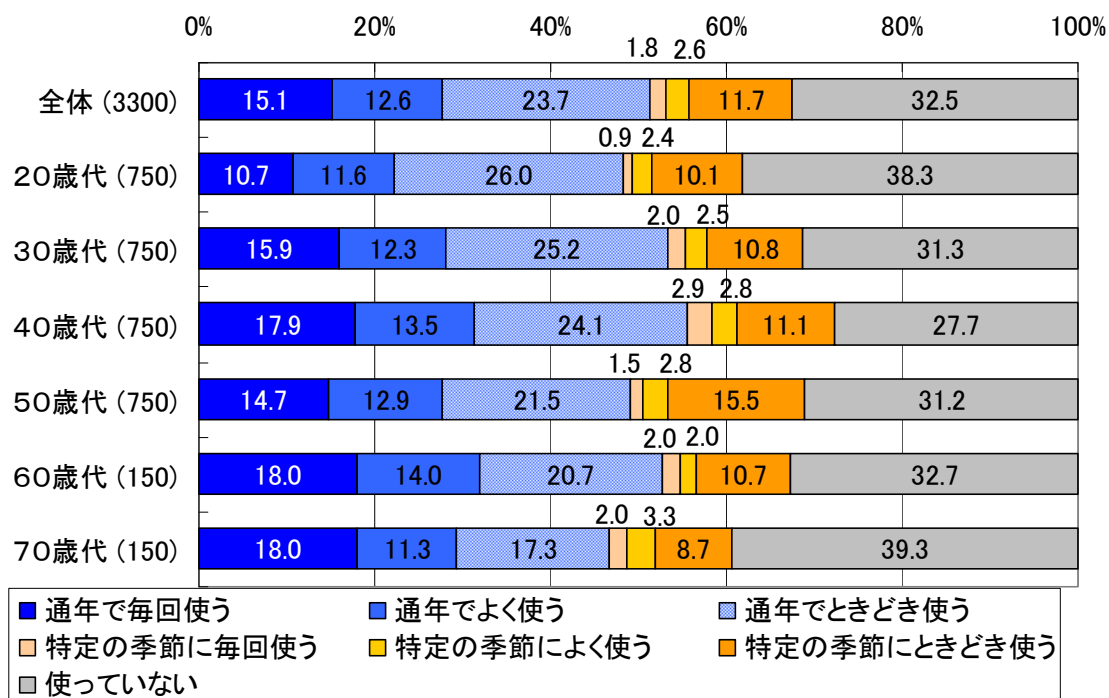
### ア. 自宅風呂場での入浴剤使用の有無

(全体)

自宅での入浴剤の使用については、「使っている」が 67.5%（「通年で使う 51.4%」  
と「特定の季節に使う 16.1%」の合計）、「使っていない」は 32.5%であった。

(年代別)

「使っている」は年代が上がるにつれて多くなる傾向があり、20 歳代の 61.7%が  
40 歳代では 72.3%になるが、50 歳代以降では減少傾向にある。



### イ. ヒヤリ・ハット / 危害経験の有無

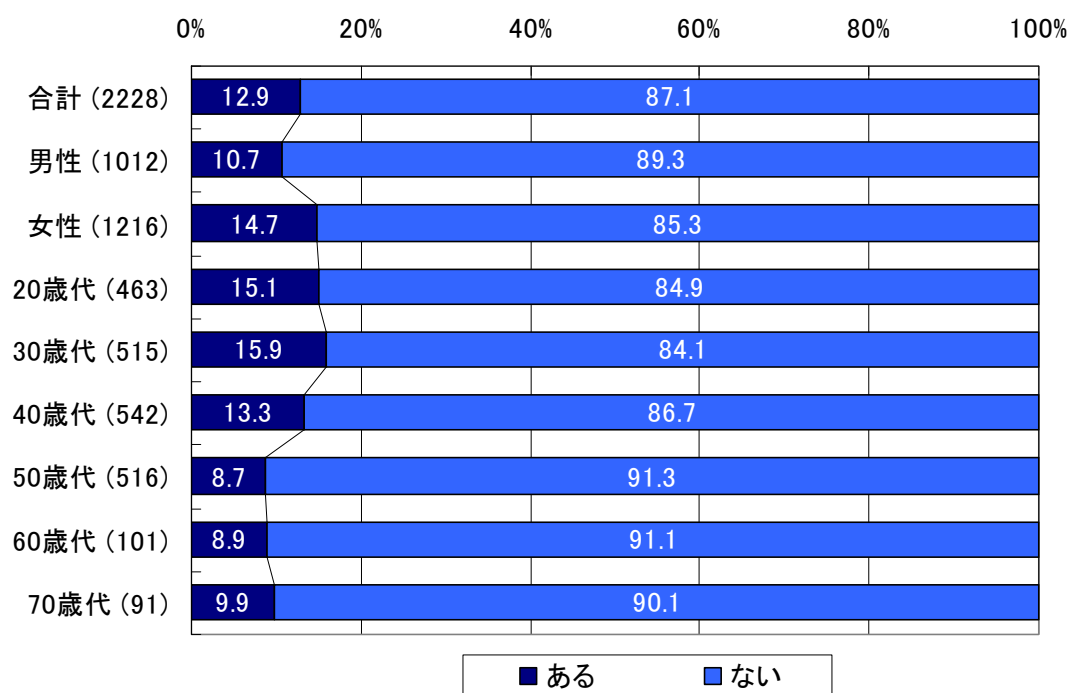
回答者は入浴剤を使っているとした 2,228 名 (全回答者の 67.5%)

(全体)

入浴剤を原因とする「滑り」「転倒」等のヒヤリ・ハット / 危害経験の有無については、「ある」は 12.9%、「ない」が 87.1%であった。

(年代別)

「ある」とした回答者の割合は、30 歳代での 15.9%が最も多く、それをピークとした山型曲線をなしており、50 歳代が 8.7%で最も少ない。



ウ. ヒヤリ・ハット/危害経験をした時の年齢

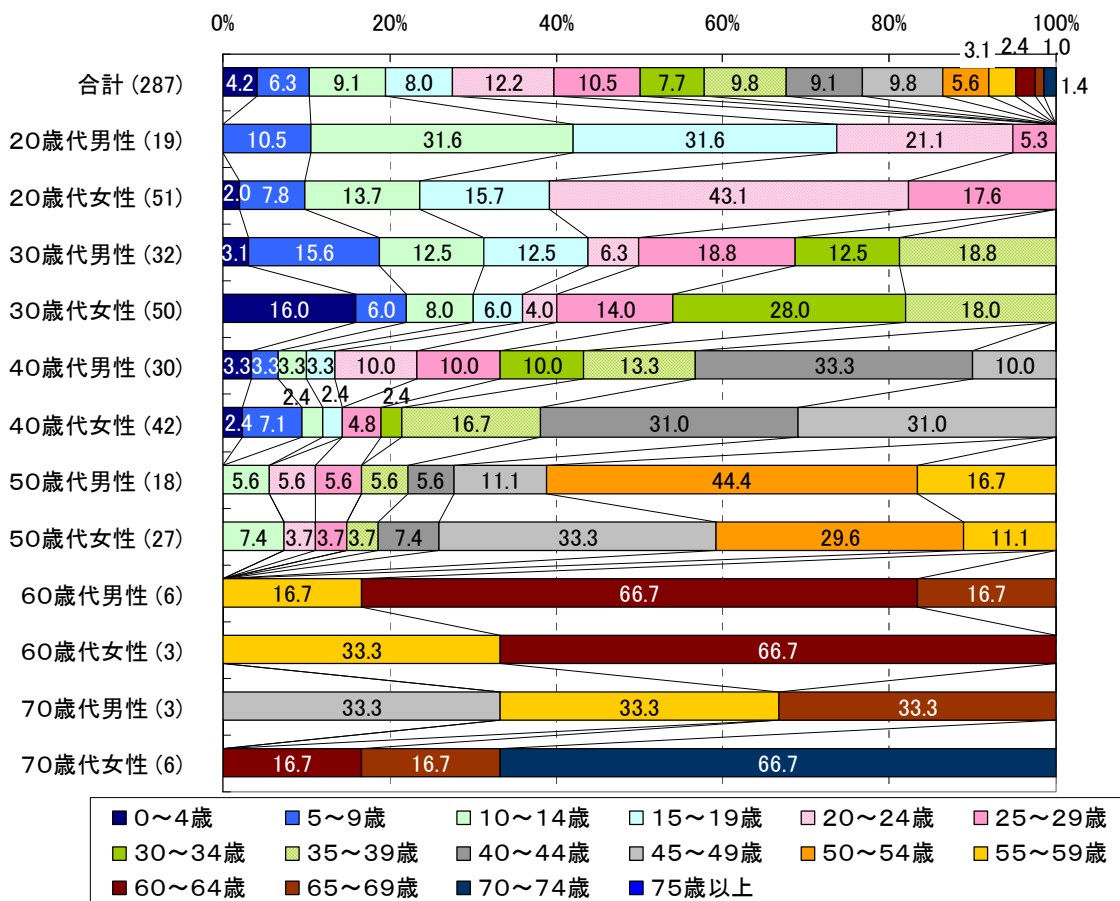
回答者は入浴剤によるヒヤリ・ハット/危害経験があったとした 287 名（全回答者の 8.6%）

（全体）

自宅風呂場で入浴剤を原因とする「滑り」「転倒」等のヒヤリ・ハット/危害経験をしたときの年齢を 5 歳階級別の年齢帯で聞いたが、「20～24 歳」が 12.2%で最も多く、概ねこれをピークに山型曲線をなしており、年齢階級層が上がるにつれて減少している。

（年代別）

ヒヤリ・ハット/危害経験時の年齢としては、全ての年代において自身が属する年代が最も多く、いずれの年代にとっても現在発生しているヒヤリ・ハット/危害経験としての意味合いが強い。





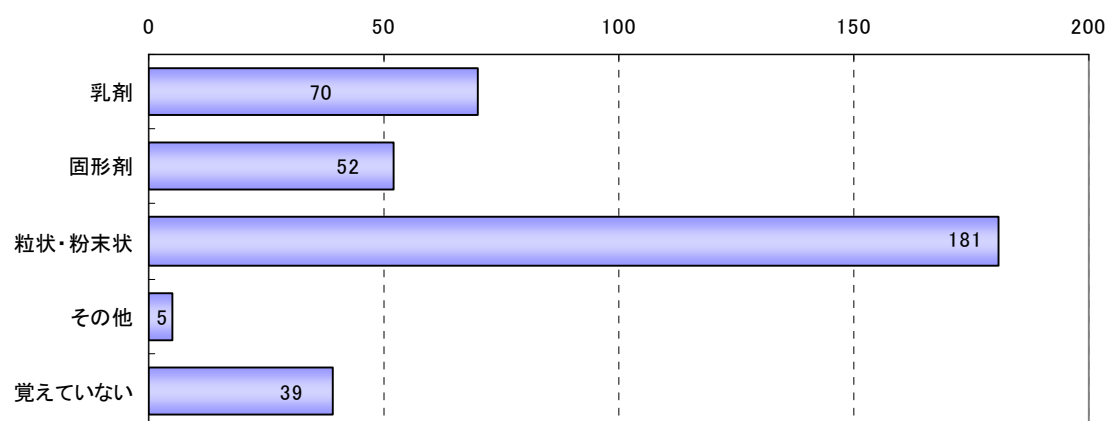
### エ. ヒヤリ・ハット / 危害経験をした際の入浴剤の形態 (複数回答)

回答者は入浴剤によるヒヤリ・ハット / 危害経験があったとした 287 名 (全回答者の 8.6%)

(全体)

ヒヤリ・ハット / 危害経験をした際の入浴剤の形態としては、「粒状・粉末状」を挙げた回答者が 63.1% で最も多い。

上記以外の形態を挙げた回答者は少なくなるが、「乳剤」が 24.4%、「固形剤」が 18.1%であった。



### オ. ヒヤリ・ハット / 危害の状況

回答者は入浴剤によるヒヤリ・ハット / 危害経験があったとした 287 名（全回答者の 8.6%）

（全体）

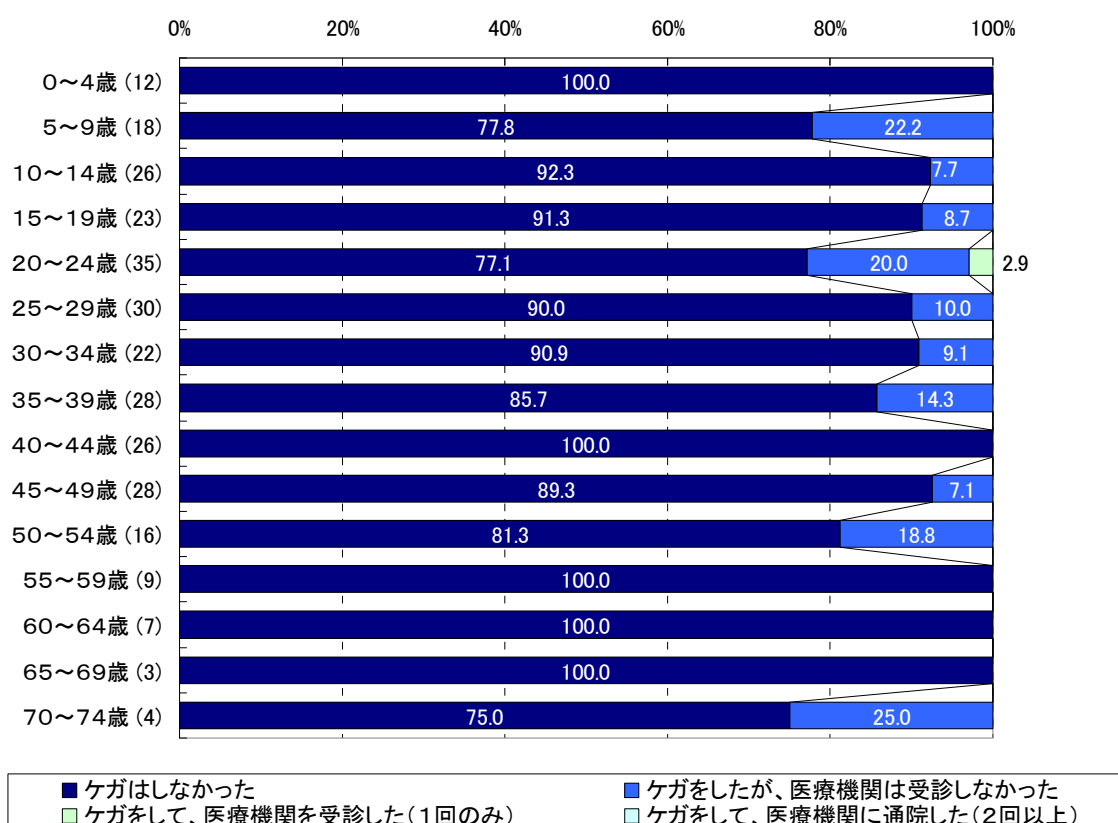
入浴剤を原因とする「滑り」「転倒」等のヒヤリ・ハット / 危害の状況としては、「ケガをした」は 11.5%、「ケガはしなかった」が 88.5%であった。

「ケガをした」11.5%（31 名）の危害レベル別内訳を見ると、「医療機関を受診した」が 0.7%（2 名）で、「医療機関は受診しなかった」が 10.8%（29 名）であった。

「医療機関を受診した」0.7%（2 名）の内訳は、「医療機関を受診（1 回）」が 0.4%（1 名）、「医療機関に通院（2 回以上）」が 0.4%（1 名）であった。

（経験時の年齢帯別）

経験時の年齢帯別に状況を見ると、「ケガをした」は、経験時年齢「5～9 歳」（22.2%）、「20～24 歳」（22.9%）、「50～54 歳」（18.8%）で 20%前後を占めて全体水準（11.5%）に比べて多くなっており、特定の年代に集中することなく幅広い。



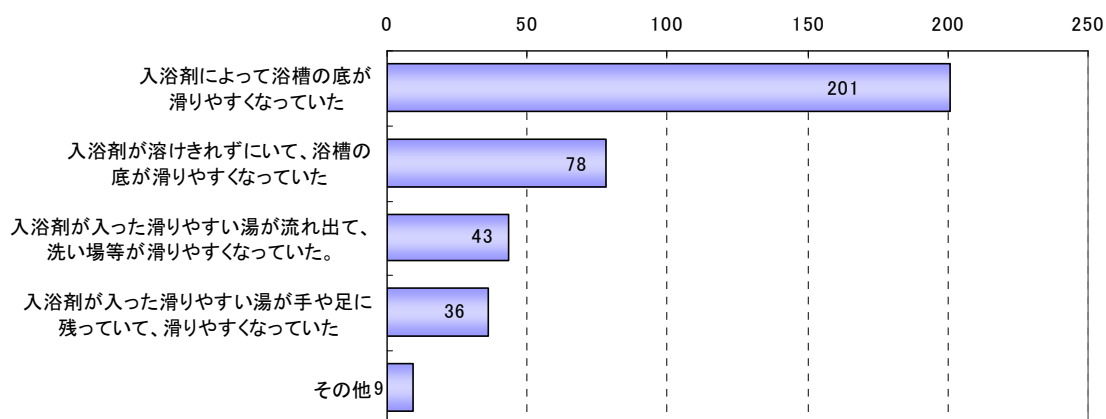
### カ. ヒヤリ・ハット／危害の原因(複数回答)

回答者は入浴剤によるヒヤリ・ハット／危害経験があったとした 287 名(全回答者の 9.0%)

(全体)

自宅風呂場での入浴剤を原因とする「滑り」「転倒」等のヒヤリ・ハット／危害の原因としては、「入浴剤によって浴槽の底が滑りやすくなっていた」を挙げた回答者が 70.0%で最も多い。

上記以外を原因としてあげた回答者は大きく減少するが、「入浴剤が溶けきれずにおいて、浴槽の底が滑りやすくなっていた」を挙げた回答者が 27.2%、「入浴剤が入った滑りやすい湯が流れ出て、洗い場等が滑りやすくなっていた」が 15.0%、「入浴剤が入った滑りやすい湯が手や足に残っていて、滑りやすくなっていた」が 12.5%であった。



キ. ヒヤリ・ハット／危害経験時の状況(自由回答)

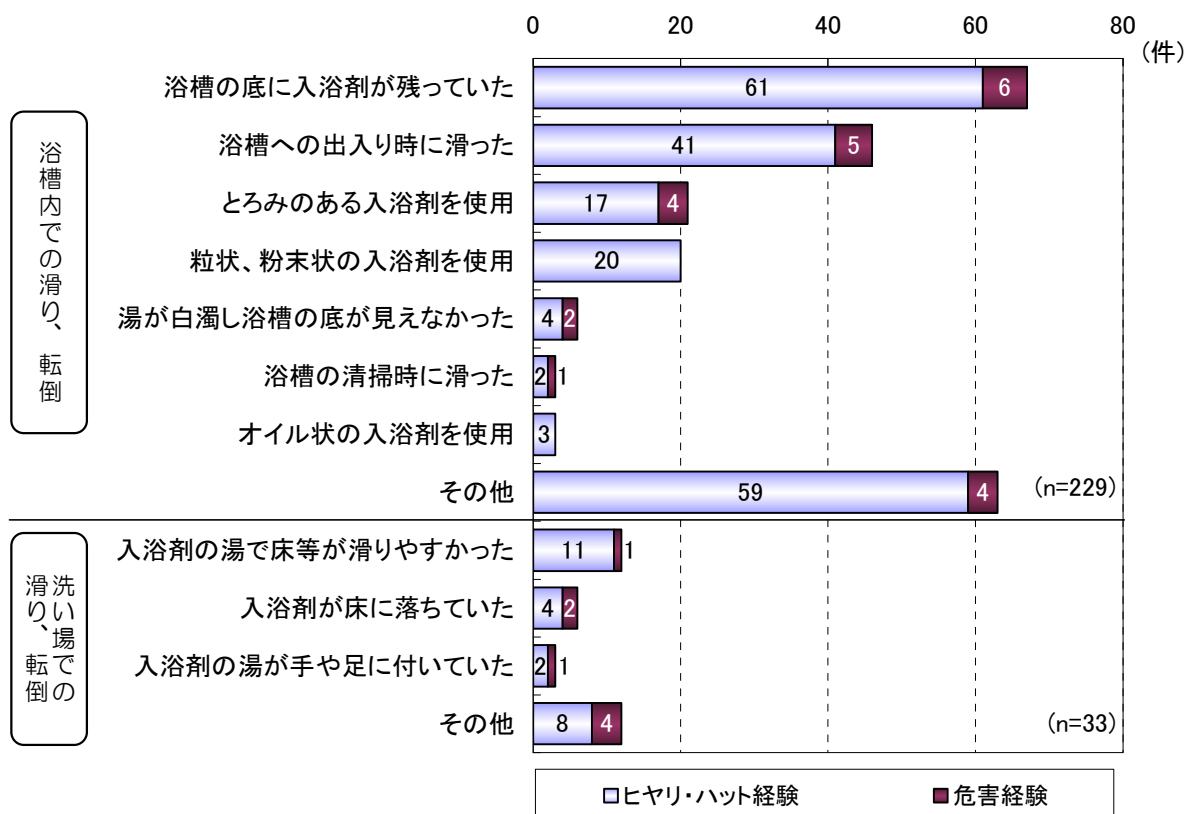
集計対象は、入浴剤による「滑り、転倒」のヒヤリ・ハット／危害経験に関する記述回答 262 件

浴槽内での「滑り、転倒」の事例は 229 件、洗い場での「滑り、転倒」の事例は 33 件であった。

内容を分類すると、最も多かったのは「浴槽の底に入浴剤が残っていた」ことによる滑り、転倒である。浴槽の縁や壁で体を打ってケガをした事例などがみられた。入浴剤が溶けきらずに浴槽の底に沈んでいた場合、足で踏んで滑る可能性があるため注意が必要である。また、「浴槽への出入り時に滑った」事例も多く、片足を上げるなどしたときに特に滑りやすいことが分かる。「とろみのある入浴剤を使用」のケースでは、湯がゼリー状になる入浴剤を使用していて滑った事例などがある。

洗い場においても、入浴剤を入れた湯が手足や床面に残っていて、滑り、転倒の原因となった事例がみられるため、よく洗い流すことが必要である。

入浴剤による「滑り、転倒」のヒヤリ・ハット／危害経験



主な事例 浴槽内での滑り、転倒

項目	内容	経験時年齢	性別
浴槽の底に入浴剤が残っていた	・ 溶けずに残ったままの部分で足を踏んでしまい、ツルッと湯の中で滑りました。幸いにも、両手で体勢を整えることが出来たため、怪我等はありませんでした。それ以来、粉末部分などは踏まずに入浴するようにしています。	35～39歳	男性
	・ ソフトカプセル状のものを使用した後、外側が溶けきれずに浴槽の底にくっついていて、立ち上がったときに底を踏んでしまい、浴槽のふちに腕をぶつけて大きなあざになってしまった。プレゼントでもらったもので、商品名はわからないが、よく女性同士でプレゼントになるようなものだった。	20～24歳	女性
	・ 粉末の入浴剤を入れたところ溶けきってなくて、浴槽の底が滑りやすくなっており足をとられてしまった。	10～14歳	女性
	・ 粉状の入浴剤を使っている。振り入れただけでは溶けきらないので、バスタブに入ってからかき回しているが、かき混ぜる前に溶け残った粉で踏み入れた足がツルツルとし、転びそうになった。アース製薬のバstromanという商品である。	45～49歳	女性
浴槽への出入り時に滑った	・ 保湿をしてくれるタイプの乳白色の入浴剤を使った際に、浴槽の縁に付いて滑りやすくなっており手をかけたところ滑ってお尻を打った。	15～19歳	男性
	・ 入浴剤を入れて、しばらくたってから浴槽に入ったときに足がすべり、蛇口で体を強打した。	25～29歳	女性
とろみのある入浴剤を使用	・ 乳液タイプの入浴剤を使用。浴槽内で滑ってしまい転倒。お尻と腕を強く打ってしまった。商品名は忘れまして。	20～24歳	男性
	・ お湯がゼリー状になる入浴剤を使ったら、何もかも滑って身動きできなくなり、すぐ流した。しかし立ち上がる際に滑ってしまい、腕を浴槽にぶつけた。	25～29歳	女性
粒状、粉末状の入浴剤を使用	・ 粉末タイプの入浴剤を使用したら、浴槽の底が滑りやすくなり、浴槽にしゃがむ時に滑り、浴槽の縁に頭をぶつけ、お湯に潜ってしまい浴槽のお湯を飲んでしまった。が大事には至らなかった。	40～44歳	男性
	・ 前日に粉末状の入浴剤を使ったら、次の日、よく洗ったつもりだったが、浴槽が滑りやすくなっていて、入るときに滑って転びそうになった。	40～44歳	女性
湯が白濁し浴槽の底が見えなかった	・ 入浴剤を入れ、その後入浴しようとしたら底がよく見えず、いつ足が底についたかわからず、滑った。	10～14歳	男性
	・ 液体の入浴剤で、白濁していたためお風呂の中がよく見えず、浴槽に入る際に滑った。浴槽にお尻と背中をぶつけたが、病院に行くほどでもなかった。メーカー名や商品名は覚えていません。白濁したものは肌にはよさそうだが、中が見えなくなるため、いつも入っているお風呂でも浴槽の底までの距離感がつかめないことがある。自分自身の注意も必要だが、なるべく濁らない入浴剤を選ぶようになった。	30～34歳	女性
浴槽の清掃時に滑った	・ 入浴剤の入っていた水を浴槽からすべて流していたと思って、浴槽掃除をしようとしたら滑った。	30～34歳	女性
	・ 特定の入浴剤に限らず、入浴中姿勢を変えるときや浴槽に入ろうとするとき、また掃除で浴槽内に入るとき、軽く滑ることがあります。意識して注意しているので実際に転倒してけがをしたことまではありません。入浴中は腰が浴槽の底で滑って、頭まで浸かってしまったことはあります。	35～39歳	女性
その他	・ 入浴剤を入れたお風呂を二日連続で入ったら底がぬるっとしていてすべった。	20～24歳	女性

主な事例 洗い場での滑り、転倒

項目	内容	経験時年齢	性別
入浴剤が入った湯で床等が滑りやすかった	・ 粉末状の入浴剤を湯船に入れ溶かした。洗い場で体を洗い、その湯で流した。湯船に浸かろうと体を動かした時、滑ってひやりとした。店頭では売っていない、母が知人から買った、緑の缶に入っている森林の香りの入浴剤。	40～44歳	女性
入浴剤が床に落ちていた、溶け残っていた	・ 風呂場にこぼれていた入浴剤が溶けて滑り、腕をすりむいたがすぐ治った。	50～54歳	男性
入浴剤(が入った湯)が手や足に付いていた	・ ローションタイプの入浴剤を使って、体を洗い流すために外に出ようとしたら、浴槽の縁に置いた手と洗い場に着いた足が同時に滑り、あやうく怪我をするところだった。	15～19歳	女性

### (3) 自宅風呂場の子供のヒヤリ・ハット及び危害について

#### ア. 小学生以下の子供との同居の有無

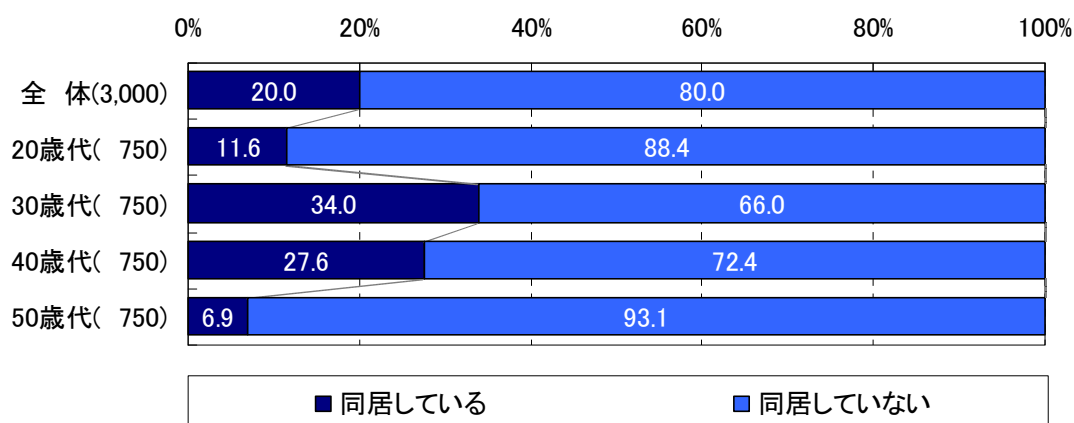
(全体)

小学生以下(0歳~小学6年生。以下では省略)の子供との同居については、「同居している」が20.0%、「同居していない」が80.0%であった。

(年代別)

小学生以下の子供と同居している割合は、30歳代が34.0%で最も多く、これをピークに山型曲線をなしており、50歳代が6.9%で最も少ない。

小学生以下の子どもとの同居の有無



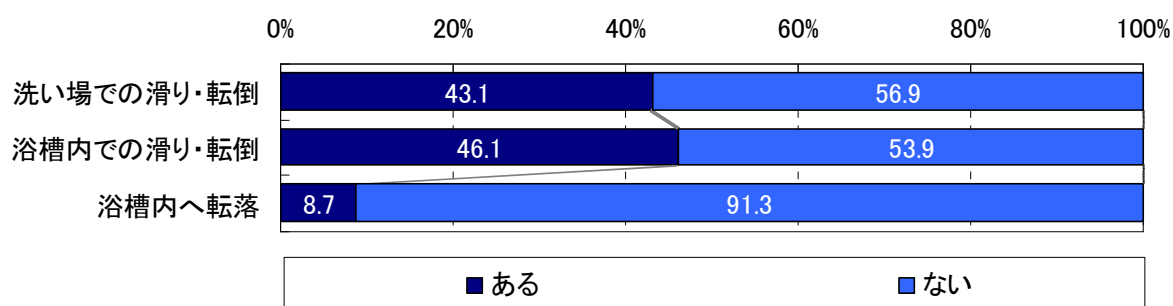
## イ. 子供の風呂場でのヒヤリ・ハット / 危害経験の有無

回答者は小学生以下の子供と同居しているとした 601 名 (全回答者の 20.0%)

(全体)

小学生以下の子供の風呂場での「滑り」「転倒」「転落」等のヒヤリ・ハット / 危害経験が「ある」とした回答者割合をケース別に見ると、『洗い場での滑り・転倒』で 43.1%、『浴槽内での滑り・転倒』で 46.1%、『浴槽内への転落』で 8.7%であった。

危害の経験の有無



ウ. 子供がヒヤリ・ハット/危害経験をした時の年齢

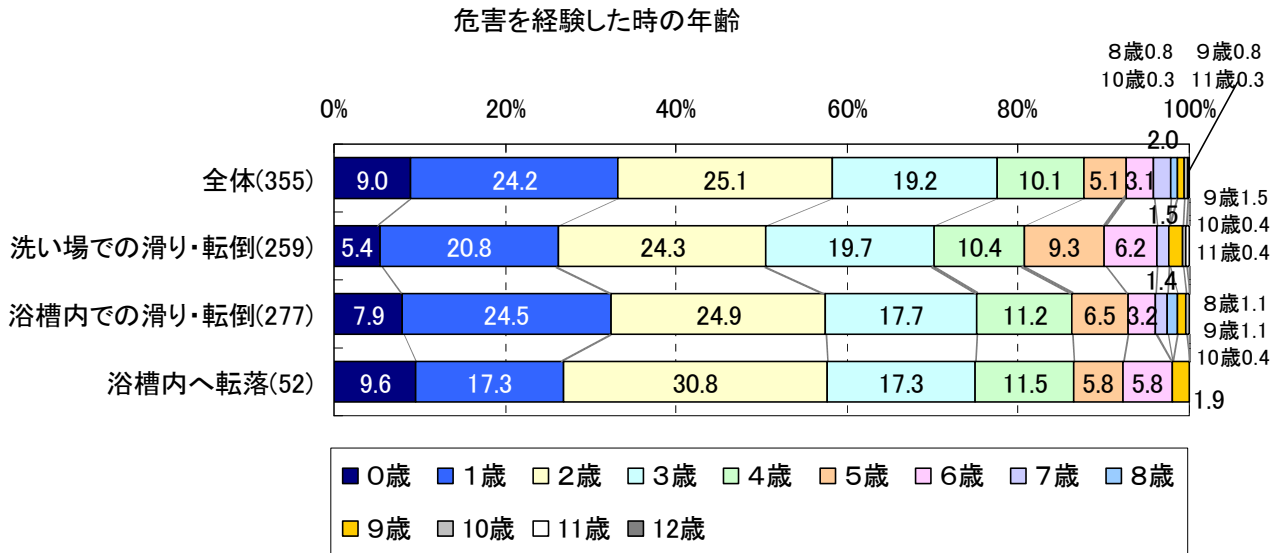
回答者は子供がいずれかのヒヤリ・ハット/危害経験をした 355 名(全回答者の 11.8%)

ヒヤリ・ハット/危害経験件数は延べ 588 件

(全体)

風呂場で「滑り」「転倒」「転落」等のヒヤリ・ハット/危害経験をした時の子供の年齢について、回答のあった全件数(588件)を対象に見ると、「2歳」の25.2%、「1歳」の22.3%、「3歳」の18.5%が最も多く、これらの合計(1~3歳時)で66.0%を占めている。「4歳」も10.9%を占めているが、これ以降は年齢が上がるにつれて概ね少なくなっていく、「12歳」では0%となる。

ケース別(「洗い場での滑り・転倒(259件)」「浴槽内での滑り・転倒(277件)」「浴槽内への転落(52件)」)にみてもすべて同じ傾向を示しているが、「浴槽内への転落」については「2歳」の割合が30.8%となっており、他の事例に比べて特に多い。





エ. 子供がヒヤリ・ハット/危害経験をした時の同浴保護者（複数回答）

回答者は子供がいずれかのヒヤリ・ハット/危害経験をした 355 名（全回答者の 11.8%）

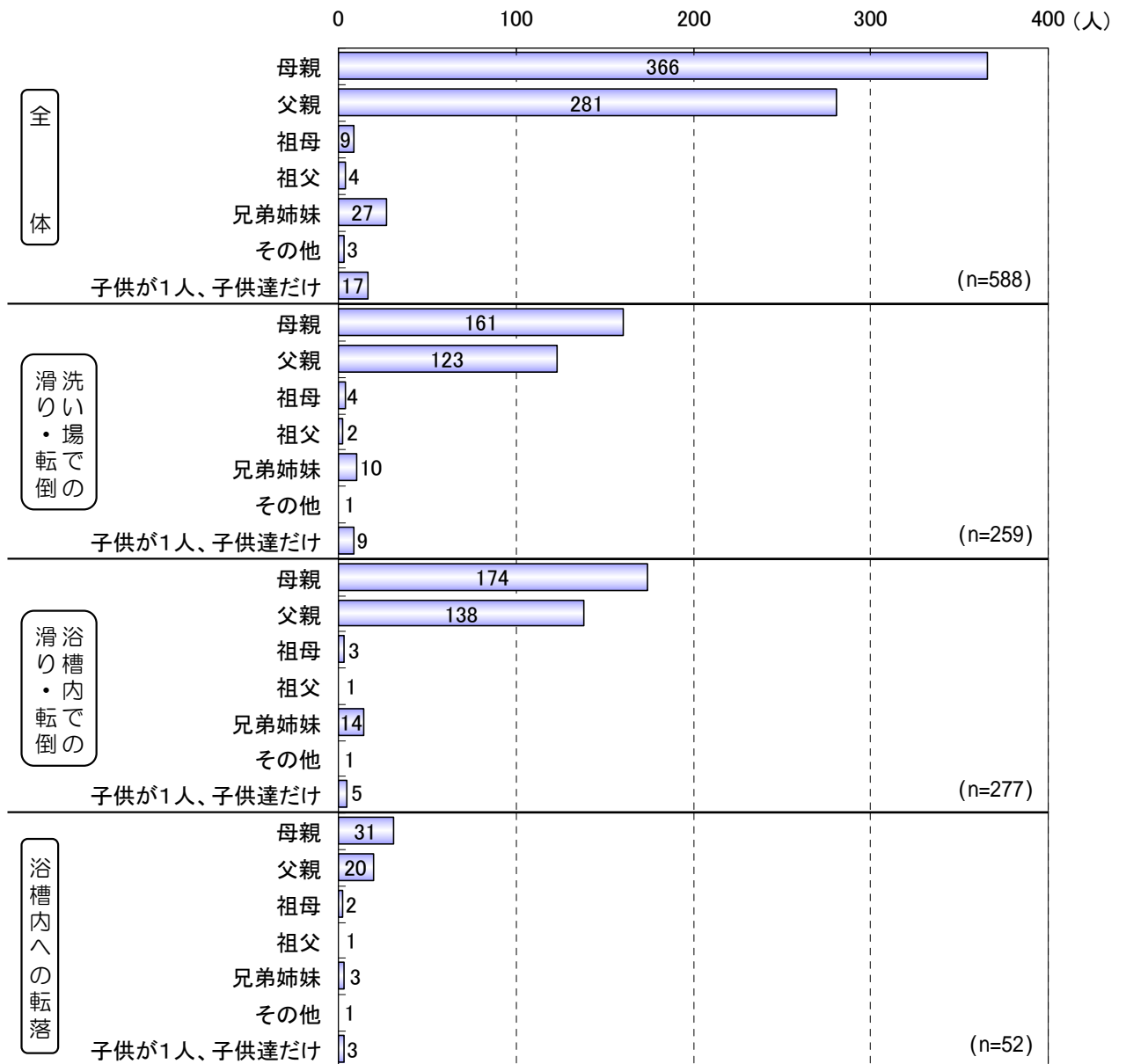
ヒヤリ・ハット/危害経験件数は延べ 588 件

（全体）

小学生以下の子供が風呂場で「滑り」「転倒」「転落」等のヒヤリ・ハット/危害経験をした時に一緒に入浴していた保護者について、回答のあった全件数(588 件)を対象に見ると、「母親」とした回答者が 62.2%、「父親」とした回答者が 47.8%で、他の保護者についてはいずれも 5%未満であり、ほとんどの事例が、同浴保護者が「母親」もしくは「父親」の時に発生している。

ケース別（「洗い場での滑り・転倒（259 件）」「浴槽内での滑り・転倒（277 件）」「浴槽内への転落（52 件）」）にみてもすべて同じ傾向を示しているが、「浴槽内への転落」については「母親」及び「父親」の割合がやや減って、「祖母」「祖父」「兄弟姉妹」「その他」及び「子供が 1 人もしくは子供達だけ」がいずれも若干ずつ多くなる。

危害経験をした時の同浴保護者



オ. 子供がヒヤリ・ハット／危害経験をした時の保護者の注意状況

回答者は子供がいずれかのヒヤリ・ハット／危害経験をした 355 名（全回答者の 11.8%）

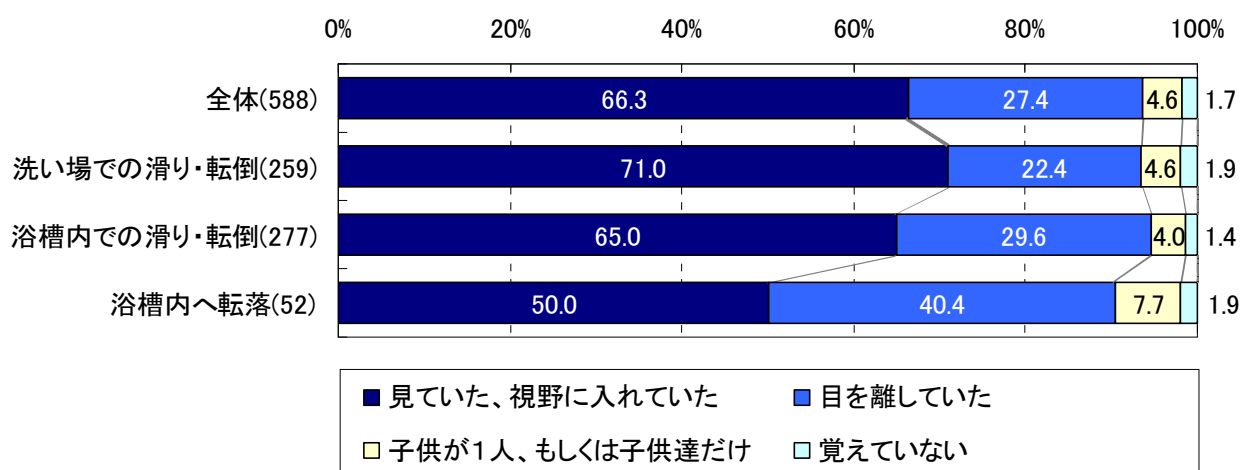
ヒヤリ・ハット／危害経験件数は延べ 588 件

（全体）

小学生以下の子供が風呂場で「滑り」「転倒」「転落」等のヒヤリ・ハット／危害経験をした時の保護者の注意状況について、回答のあった全件数（588 件）を対象に見ると、「見ていた、視野に入れていた」が 66.3%を占めており、7 割近くは保護者が「見ていた、視野に入れていた」状況で発生している。なお、これ以外では、「目を離していた」が 27.4%、「子供が 1 人、もしくは子供達だけ」が 4.6%、「覚えていない」が 1.7%であった。

ケース別（「洗い場での滑り・転倒（259 件）」「浴槽内での滑り・転倒（277 件）」「浴槽内への転落（52 件）」）にみてもほぼ同様な傾向を示しているが、「浴槽内への転落」については、「見ていた、視野に入れていた」が 50.0%に減り、代わりに「目を離していた」が 40.4%と多くなる。

危害経験をした時の保護者の注意状況



### カ. 子供の風呂場でのヒヤリ・ハット/危害経験の状況

回答者は子供がいずれかのヒヤリ・ハット/危害経験をした 355 名（全回答者の 11.8%）

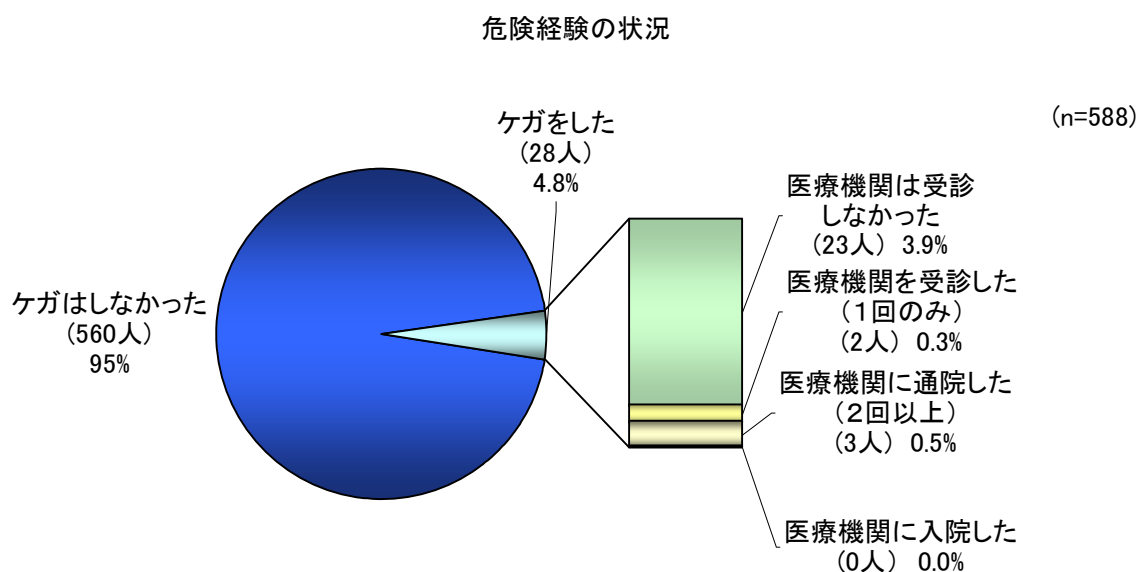
ヒヤリ・ハット/危害経験件数は延べ 588 件

（全体）

小学生以下の子供の風呂場での「滑り」「転倒」「転落」等のヒヤリ・ハット/危害経験の状況について、回答のあった全件数（588 件）を対象に見ると、「ケガをした」は 4.8% で、「ケガはしなかった」が 95.5% を占めている。

「ケガをした」4.8%（28 件）の危害レベル別内訳を見ると、「医療機関を受診した」は 0.9%（5 名）で、「医療機関は受診しなかった」が 3.9%（23 名）であった。「医療機関を受診した」0.9%（5 名）の内訳を見ると、「医療機関を受診した（1 回）」は 0.4%（2 名）、「医療機関に通院した（2 回以上）」が 0.5%（3 名）であった。

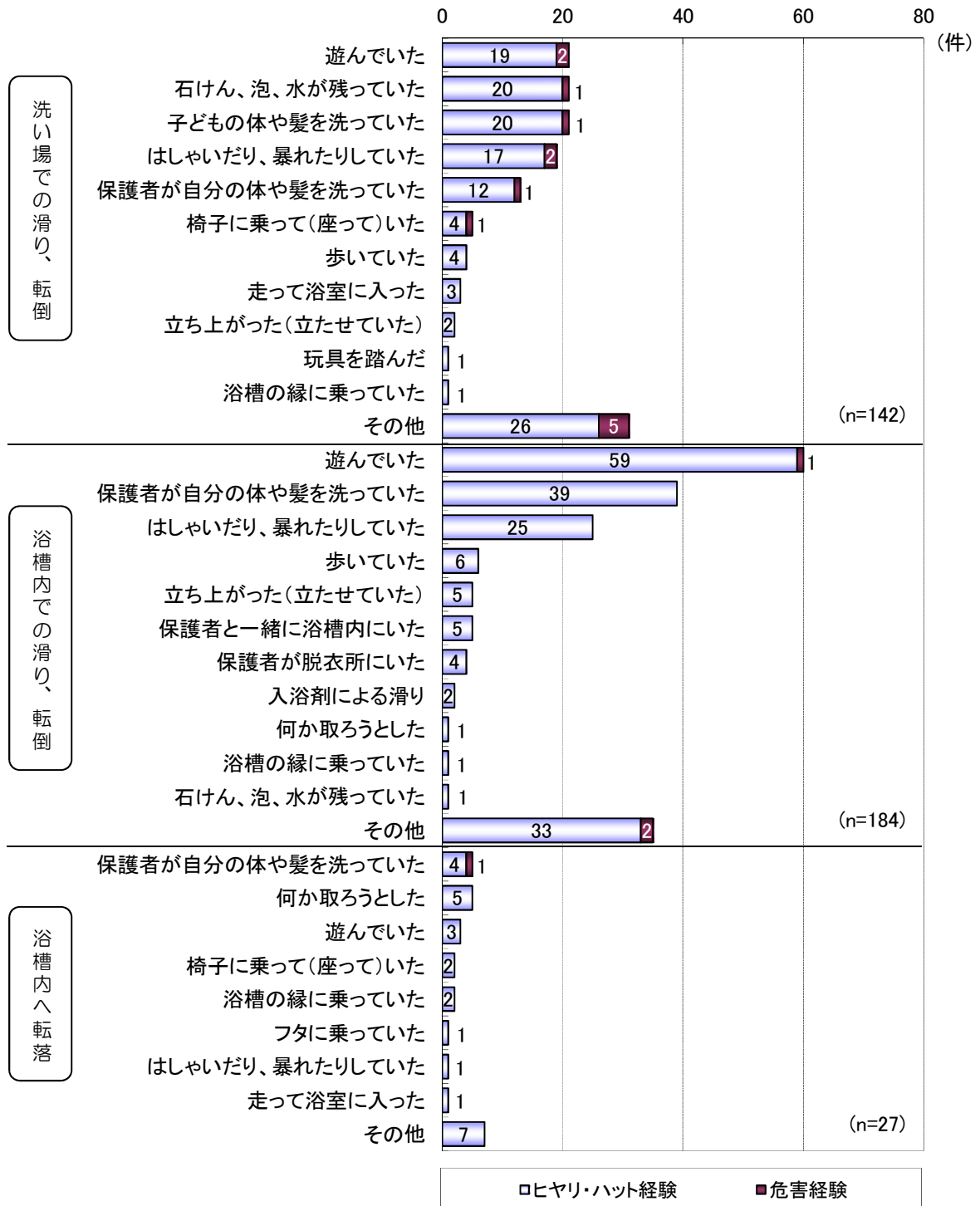
ケース別（「洗い場での滑り・転倒（259 件）」「浴槽内での滑り・転倒（277 件）」「浴槽内への転落（52 件）」）にみると、「ケガをした」の割合は、「洗い場での滑り・転倒」が 7.3% で一番多く、以下、「浴槽内への転落（52 件）」が 3.8%、「浴槽内での滑り・転倒（277 件）」が 2.5% であった。



キ. ヒヤリ・ハット / 危害経験時の状況 (自由回答)

集計対象は、風呂場での子どもの「滑り、転倒、転落」によるヒヤリ・ハット / 危害経験に関する記述回答 353 件

風呂場での子どもの「滑り、転倒、転落」によるヒヤリ・ハット / 危害経験



ケース別でみると「洗い場での滑り、転倒」の事例は142件、「浴槽内での滑り、転倒」184件、「浴槽内へ転落」27件であった。危害（実際にケガをした）経験の事例は、「洗い場での滑り、転倒」が13件と最も多い。

内容を分類すると、洗い場においては、「遊んでいた」「石けん、泡、水が残っていた」「子どもの体や髪を洗っていた」各21件、「はしゃいだり、暴れたりしていた」19件となっている。遊んでいるときだけでなく、保護者が子どもの体を洗っているときでも、床面の泡や石けんで足を滑らせる事例がみられる。

浴槽内においては、「遊んでいた」が60件と最も多く、次いで「保護者が自分の体や髪を洗っていた」「はしゃいだり、暴れたりしていた」が続く。保護者が自分の体や髪を洗っているときの子どもの滑り、転倒は、洗い場よりも浴槽内において多く発生している。

浴槽内への転落においては、「保護者が自分の体や髪を洗っていた」、「何か取ろうとした」（洗い場から浴槽の玩具などに手を伸ばすなど）のほか、「浴槽の縁に乗っていた」ときに転落した事例がある。

#### 主な事例 洗い場での滑り、転倒

項目	内容	経験時年齢
遊んでいた	・ 石鹸遊びで床面をヌルヌルにしている、立ち上がろうとして自分でこけた。	3歳
	・ 母親の洗髪中に、浴室で遊んでいた子供がシャンプーの泡で足を滑らせ転倒した。頭部を打ったが経過観察することにし、その後、目立った症状がなかったことから医者には行かなかった。	5歳
子どもの体や髪を洗っていた	・ 子どもと一緒に体を洗っていたところ、子どもが固形石鹸を踏んで転びそうになった。間一髪、抱きとめて無事だった。	4歳
	・ シャワーを親が持って、子供を立たせて泡を洗い流していたら滑って転んだ。すぐに助け起こした。怪我はしなかったが、子供は驚いて大泣きし、なだめるのに時間がかかった。	1歳
はしゃいだり、暴れたりしていた	・ 身体を洗ってあげている時に、子どもがジャンプするようにしゃがんだり立ったりし、滑った。	2歳
保護者が自分の体や髪を洗っていた	・ 自分がシャンプーをしている時に急に子供が湯船から出てきて転倒しそうになったが、咄嗟に腕を掴み大事に至らなかった。	6歳
椅子に乗って（座って）いた	・ 子供用の椅子の上に立って遊んでいたところ、椅子自体が滑りお尻から洗い場に落ちた。	2歳
走って浴室に入った	・ 自分が静止するまもなく子供が洗い場に走りながら入っていき滑って転んだ。	1歳

## 主な事例 浴槽内での滑り、転倒

項目	内容	経験時年齢
遊んでいた	・ お湯の中で跳ねたりもぐったりして遊んでいて足を滑らせてお湯の中に転ぶ。自分で起き上がったがお湯を飲んでむせこんだ。	7歳
	・ 浴槽内で玩具で遊んでいた時に立ち上がろうとして、沈んでいた玩具に乗っかり滑って転倒した。すぐに助けたが、頭も縁にぶつけたので痛かった様で泣いていました。	3歳
	・ 浴槽内で何秒潜ってられるかという遊びをやっている時に、上の子が下の子の頭を押し、びっくりして慌てて顔を出した所、浴槽の床で滑って溺れかけた。本人がしっかりと立ち上がったので何もケガ等はなかった。	4歳
保護者が自分の体や髪を洗っていた	・ 体を洗っているときにちょっと目を離したときに浴槽内で転倒した、すぐに助けたので大事には至らなかった。	1歳
	・ 髪を洗っている最中にドボンという音がしたので見ると、下の子が足を滑らせて浴槽に沈みかけているところだった。すぐに助けたので、咳き込んで大泣きしただけで済んだ。	1歳
はしゃいだり、暴れたりしていた	・ 自分が体を洗っている時に兄弟ではしゃぎすぎて滑った。すぐに抱きかかえたのでけがはなかったが本人はびっくりして泣いた。	3歳

## 主な事例 浴槽内へ転落

項目	内容	経験時年齢
保護者が自分の体や髪を洗っていた	・ 母親が洗髪中に、洗い場から浴槽に浮かんでいるおもちゃを取ろうとした子供が浴槽に頭から転落した。すぐに自分で起き上がり、怪我はなかった。	6歳
	・ まだ、お座りができないころ 私が体を洗っている間は、風呂ふたの上に寝かしていた。寝返りを打って そのまま浴槽内に落ちたが、お湯がクッションとなり怪我はなかった	0歳
椅子に乗って（座って）いた	・ ある程度成長し、なんでも自分でやりたい歳になっていた。脱衣所で服を脱いでいる際に、椅子を踏み台にして風呂に入ろうとして転落した。すぐに助けたので問題はなかった。未だに自分で椅子を踏み台にして風呂に入ろうとするので、注意が必要。	2歳
浴槽の縁に乗っていた	・ 絶対にやってはいけない約束をしていたが、やはり一人だとへりに乗って滑って、背が高かいので手すりをつかんで股を打っただけで済んだが、本人はしばらく放心状態だった。	6歳
フタに乗っていた	・ ふたの上に乗る、体重でふたが変形し浴槽に転落した。怪我などは無かった。	4歳

#### (4) 石鹸・洗剤等によるヒヤリ・ハット及び危害について

ア. 石鹸・洗剤等による皮膚障害のヒヤリ・ハット／危害経験の有無

(全体)

石けん・洗剤等による皮膚障害(かぶれ・炎症、痛み・痒み等)のヒヤリ・ハット／危害経験が「ある」とした割合を製品別に見ると、「カビ取り剤」での14.1%が最も多く、以下、「シャンプー」(12.6%)、「リンス・トリートメント・コンディショナー等」(10.1%)、「石けん(液状・乳状)」(8.9%)、「風呂用洗剤」(8.3%)、「石けん(固形)」(7.3%)、「入浴剤」(5.8%)であった。

(年代別)

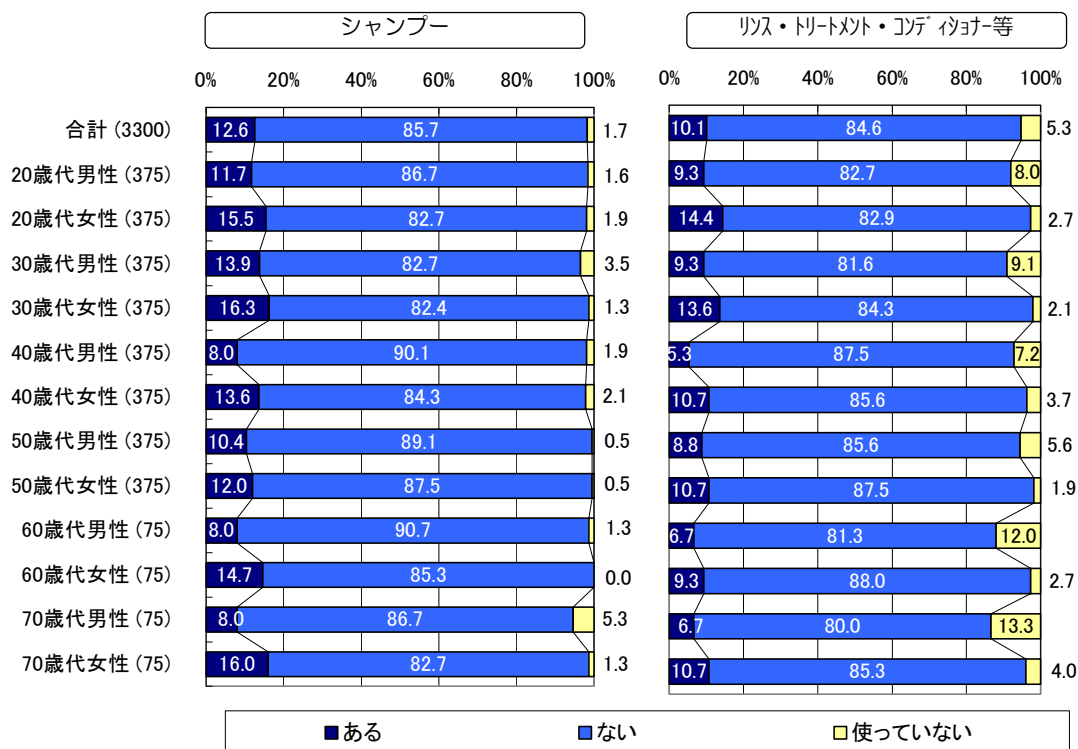
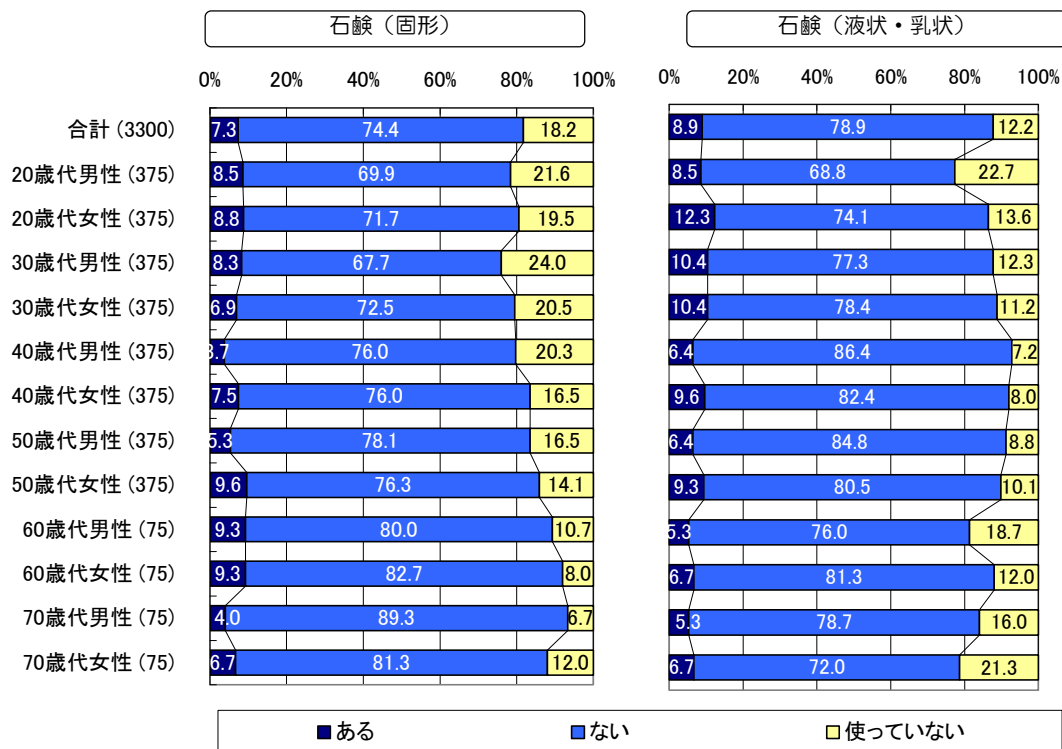
ヒヤリ・ハット／危害経験があるとした割合が10%を超えたアイテムが、20・30歳代では4製品(「カビ取り剤」「シャンプー」「リンス・トリートメント・コンディショナー等」「石けん(液状・乳状)」)あるが、40・50歳代では2製品(「カビ取り剤」「シャンプー」)に減る。

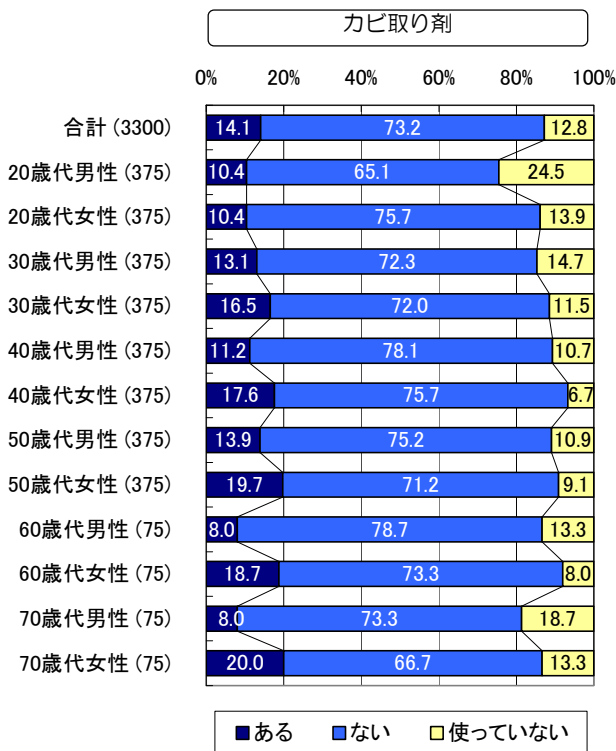
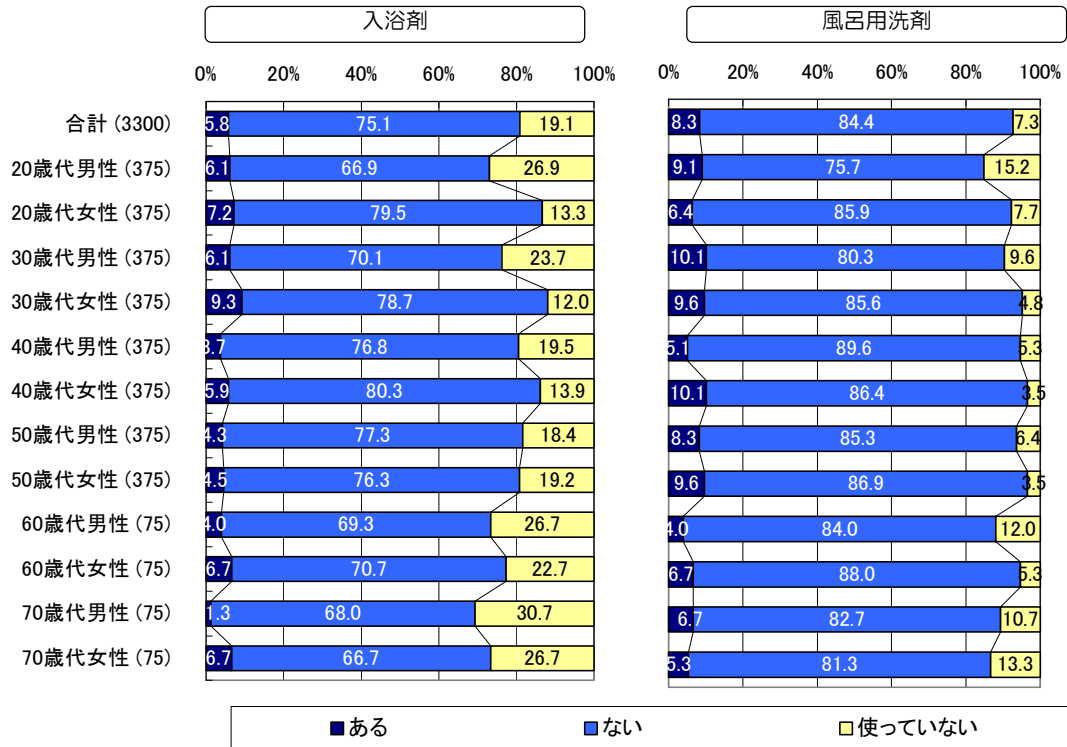
(性別)

ヒヤリ・ハット／危害経験があるとした回答者割合は、すべての製品で女性が男性より多い。

そのことは、年代別に見ても、若干の例外を除き、同様の傾向となっている。







イ. 石鹼・洗剤等による皮膚障害のヒヤリ・ハット/危害経験の状況

回答者はいずれかの製品でヒヤリ・ハット/危害経験があったとした 841 名（全回答者の 28.0%）

ヒヤリ・ハット/危害経験件数は延べ 2,211 件

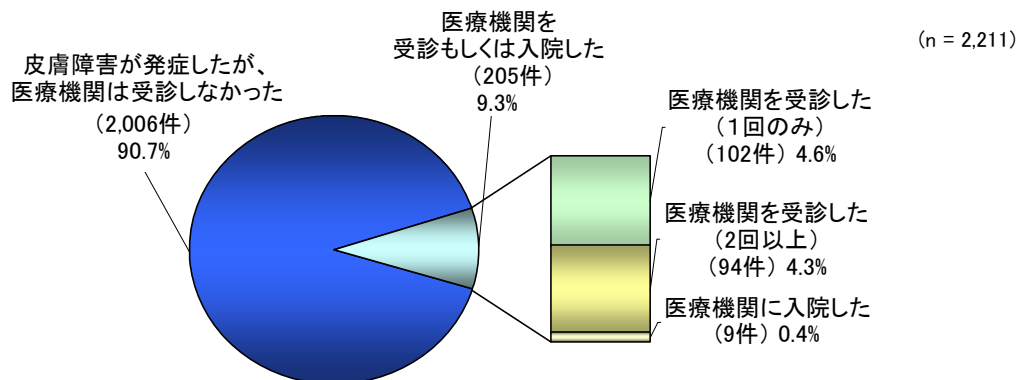
（全体）

皮膚障害の場合は「ヒヤリ・ハット経験」は原則として存在せず、ほとんどが「危害経験」であったと思われるので、ここでは前問での「ヒヤリ・ハット/危害経験」を「危害（皮膚障害）経験」として捉えた。

いずれかの製品による皮膚障害（かぶれ・炎症、痛み・痒み等）の危害レベル別内訳について、回答のあった全件数（2,211 件）を 100% として見ると、「医療機関を受診した」は 9.3%（205 件）で、「医療機関を受診しなかった」が 90.7%（2,006 件）であった。

「医療機関を受診した」9.3%（205 件）の内訳は、「医療機関を受診した（1 回）」が 4.6%（102 件）、「医療機関に通院した（2 回以上）」が 4.3%（94 件）、「医療機関に入院した」が 0.4%（9 件）となっており、ここでは「医療機関に入院した」事例が出現している。

危害経験の状況(全アイテムの合計)

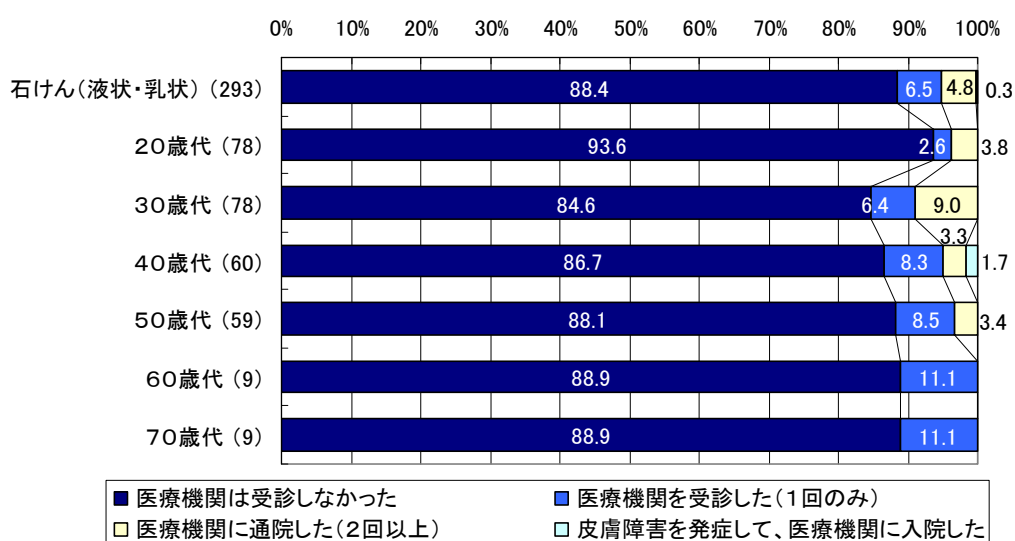
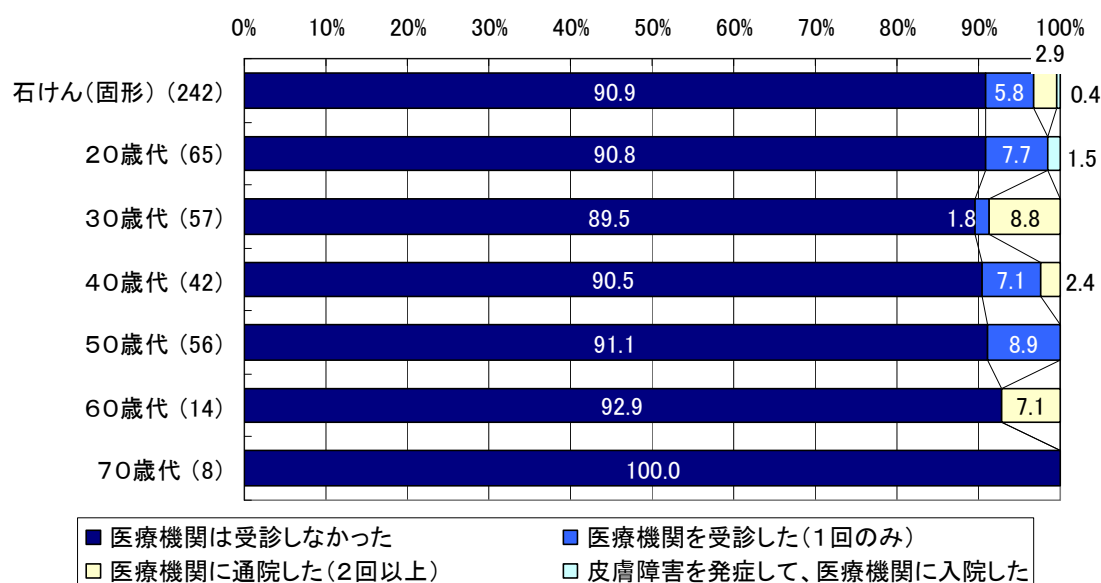


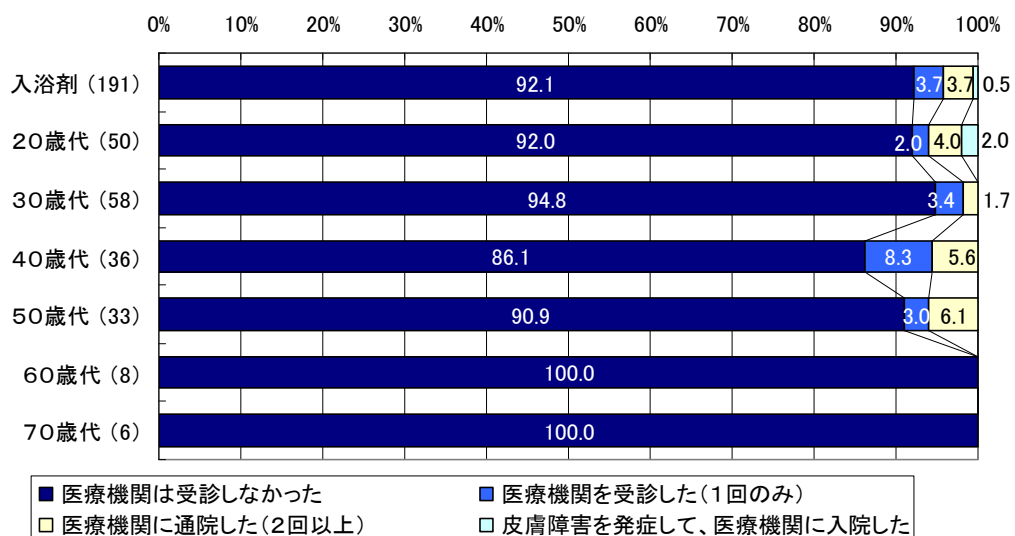
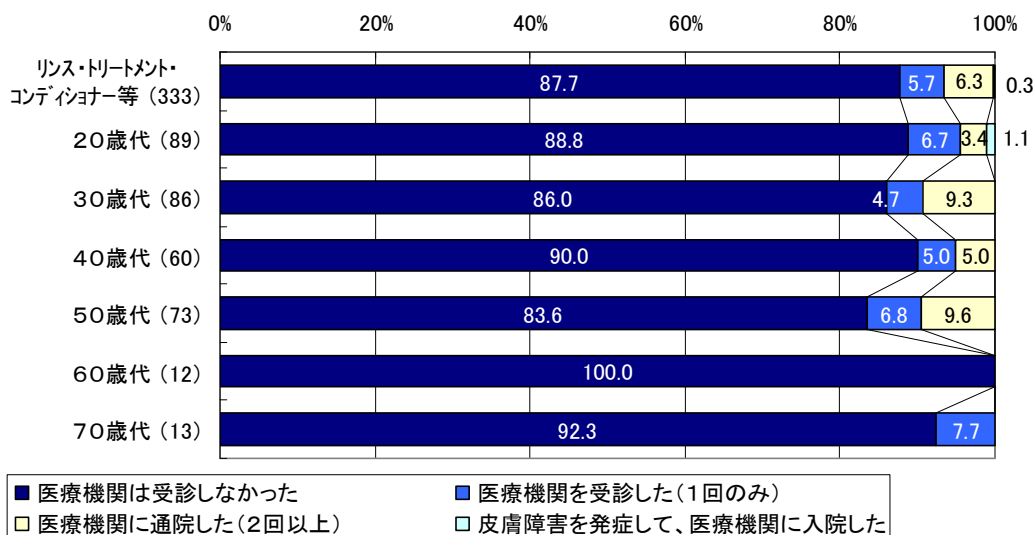
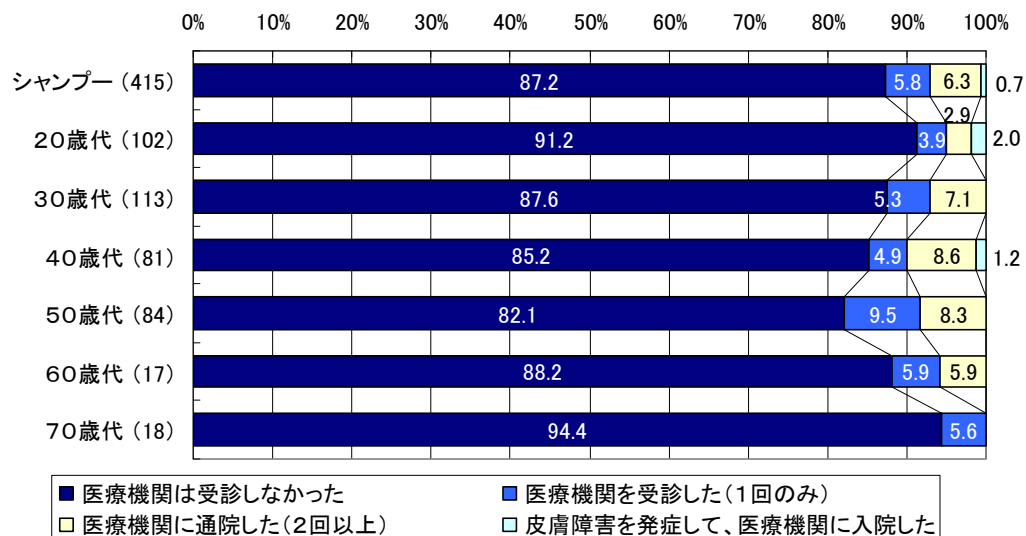
(アイテム別)

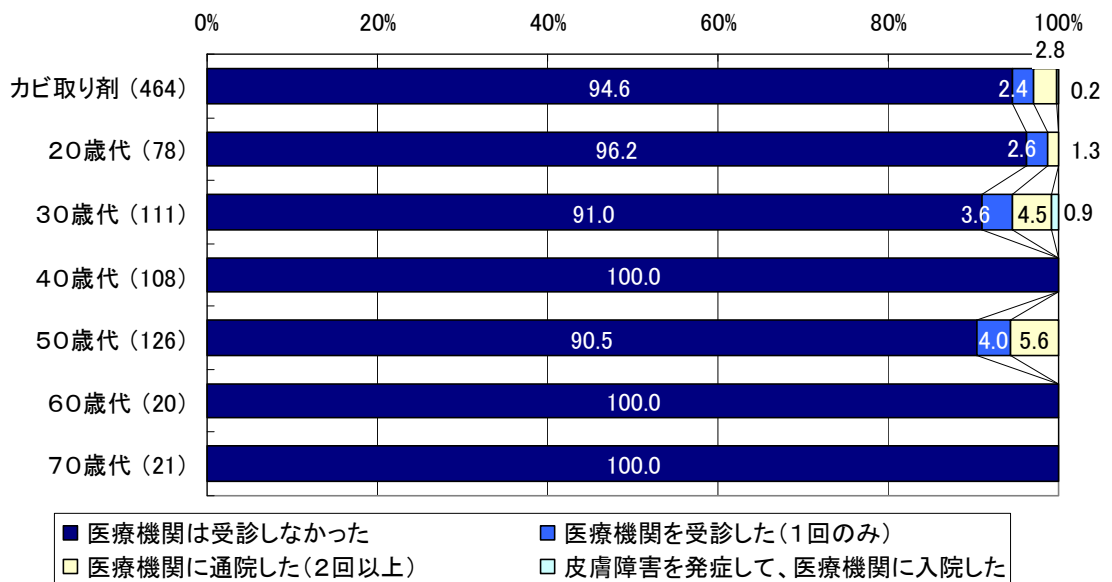
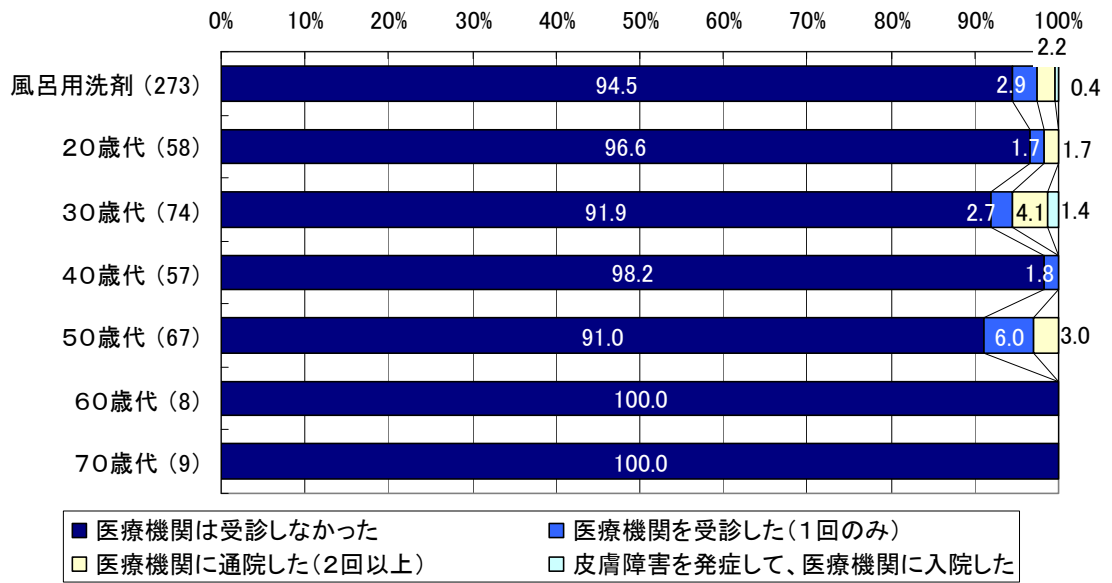
危害経験(皮膚障害)の中で「医療機関を受診した」割合が多いアイテムは「シャンプー」の13.2%、「リンス・トリートメント・コンディショナー等」の13.0%となっている。これら以外では、「石けん(液状・乳状)」(11.6%)、「石けん(固形)」(9.5%)、「入浴剤」(8.5%)も10%前後を占めているが、「風呂用洗剤」(5.9%)、「カビ取り剤」(5.9%)ではその割合は6%弱でやや少なくなっている。

(年代別)

各アイテムにおいて年代による明確な傾向は読み取れないが、「医療機関を受診した」割合が最も多い世代は、「石けん(固形)」「石けん(液状・乳状)」では30歳代、「入浴剤」では40歳代、「シャンプー」「リンス・トリートメント・コンディショナー等」「風呂用洗剤」「カビ取り剤」では50歳代となっている。







ウ. 風呂用洗剤・カビ取り剤使用時の保護具の使用状況

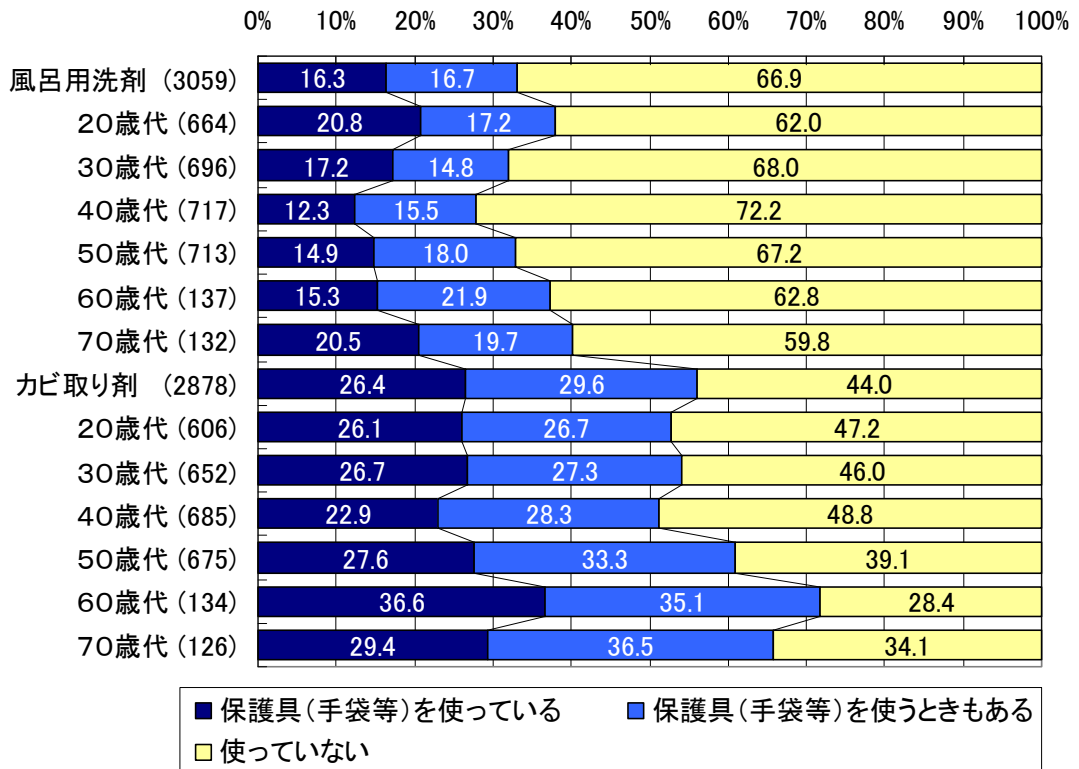
回答者は風呂用洗剤・カビ取り剤のいずれかを使用している 3,116 名（全回答者の 94.4%）

（全体）

保護具（手袋・マスク等。以下では省略）を「使用している」割合は、「風呂用洗剤」では 33.0%（「使っている 16.3%」と「使うときもある 16.7%」の合計）であるが、「カビ取り剤」ではその割合は増えて 56.0%（「使っている 26.4%」と「使うときもある 29.6%」の合計）となる。

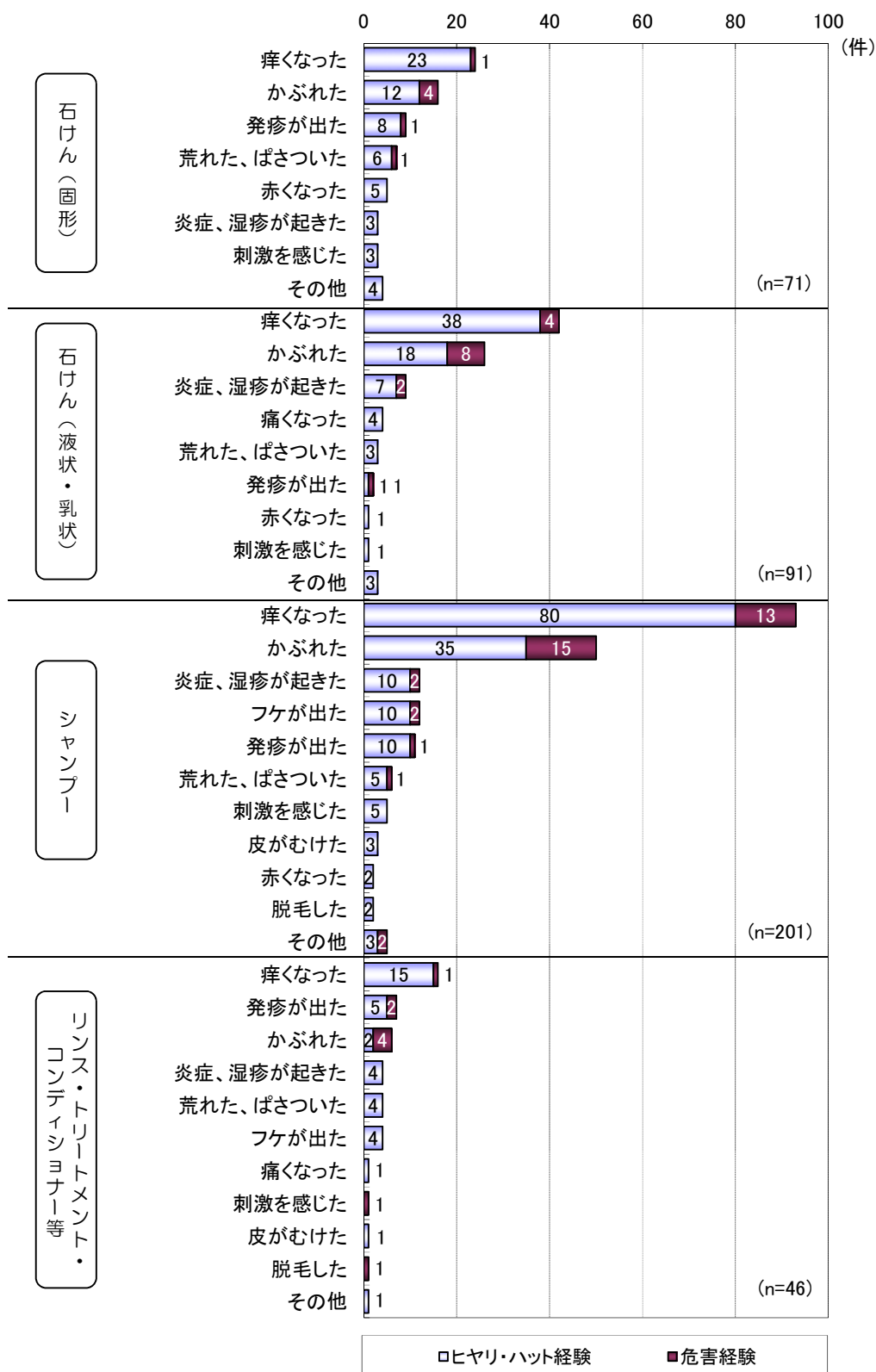
（年代別）

明確な傾向ではないが、「風呂用洗剤」では「保護具の使用」は 40 歳代を谷となる傾向があるが、「カビ取り剤」では 50 歳代以降で「保護具の使用」が多くなる傾向が見られた。



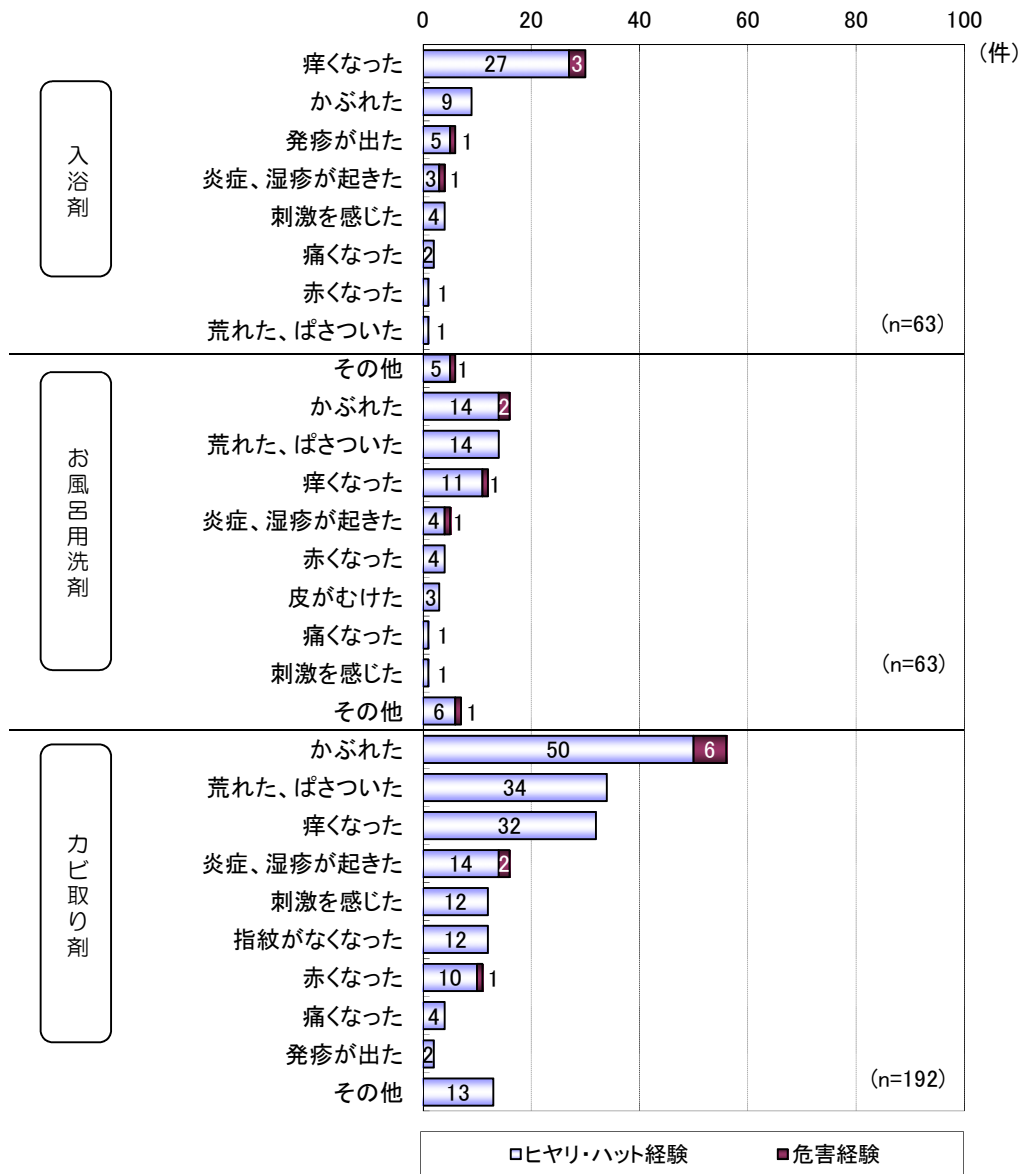
エ. ヒヤリ・ハット／危害経験時の状況(自由回答)

石けん、洗剤等による皮膚障害のヒヤリ・ハット／危害経験(1)





石けん、洗剤等による皮膚障害のヒヤリ・ハット／危害経験(2)



集計対象は、石けん、洗剤等による皮膚障害のヒヤリ・ハット／危害経験に関する記述回答 727 件

アイテム別にみると、「石けん（固形）」71 件、「石けん（液状・乳状）」91 件、「シャンプー」201 件、「リンス・トリートメント・コンディショナー等」46 件、「入浴剤」「お風呂用洗剤」各 63 件、「カビ取り剤」192 件となっている。

「シャンプー」に関する事例が最も多かった。

内容を分類すると、以下のとおりである。

石けん（固形）

「痒くなった」が最も多く、以下「かぶれた」、「発疹が出た」が上位となっている。具体的には、いつも使用しているものと違うものに変えたときや、外国産の土産

物を使用して皮膚障害を発症した事例などがある。

石けん（液状・乳状）

固形石けんと同様、「痒くなった」、「かぶれた」という事例が多い。皮膚障害を発症して医療機関を受診した例では、液体石けんを使用中にかぶれが発生し、使用を中止したら元に戻ったなどの事例がある。

シャンプー

最も多い症状が「痒くなった」で93件、次いで「かぶれた」が50件となっている。使用商品を変えたら「フケが出た（増えた）」という例も多い。また、頭皮のトラブルだけでなく、シャンプーに触れる手や顔がかぶれたり、荒れたりした例もみられる。リンス・トリートメント・コンディショナー等

「痒くなった」、「発疹が出た」、「かぶれた」という事例が多くなっている。洗い流しが不十分で背中に吹き出物ができたという例が複数あった。

入浴剤

「痒くなった」、「かぶれた」、「発疹が出た」が上位となっている。柑橘系の入浴剤を使用したら痒みが出た、塩（バスソルト）が入った入浴剤で、ひりひりとした刺激を感じた、などの事例がある。

お風呂用洗剤

「かぶれた」、手が「荒れた」、「痒くなった」という事例が多い。浴槽掃除に使用後、次に入浴したときに皮膚が赤くなったり、かぶれたりした例がある。お風呂用洗剤を使用後は、十分に荒い流すことが必要と思われる。

カビ取り剤

「かぶれた」が最も多く、56件あった。次いで「荒れた」、「痒くなった」という事例が多い。ゴム手袋を着けていたが破れているのに気づかず、手に皮膚障害が発症した例が複数みられた。また、スプレー式容器から液だれして手に付着した例もあった。その他、浴室の床や壁に使用した後、次の入浴時に足の裏に刺激を感じたなどの例もある。

## 主な事例 石けん（固形）

項目	内容	年齢	性別
痒くなった	・ホームセンターで買った安い固形化粧石鹸(洗濯に使用するつもりで購入)を、いつも使っている石鹸が切れていたため臨時に使用したところ痒みを感じ、発疹が出た。次の日には一応消えていたが、再度使用したらまた同じ症状が現れ重症化した為皮膚科で治療した。中国製の石鹸でした。	50代	女性
	・もらい物の石鹸を長期間使用せず、忘れていた。整理したら出てきたので、お風呂につかったら、皮膚が痒くなりかぶれた。市販の塗り薬をつけて直った。石鹸も賞味期限があるんだと知った。	50代	女性
かぶれた	・洗顔石鹸を変えたら顔が赤くなっていき、かぶれたり刺激を感じるようになった。湿疹が出ていると皮膚科医に言われた。石鹸を低刺激性のものにしたら徐々に治った。	40代	女性
発疹が出た	・シミが取れるという黒い石鹸を使ったら、シミが取れる前に赤くなり発疹が出たので、びっくりしてやめた。	50代	女性
荒れた、ばさついた	・しっとり系からサッパリ系に変えたら手が荒れた。	20代	男性
	・ニキビ用のものを使っていたが、ピーリング作用がありすぎて、肌を痛めた。	30代	女性
赤くなった	・いつも使っている洗顔石鹸が切れた時に違うのを使ったら、顔が赤らみヒリヒリした。	30代	男性
	・海外からのおみやげでもらったココナツオイルの石鹸を使ったら、首まわりなどの皮膚がヒリヒリして赤くなった。メーカーなどは記憶していない。	40代	女性
炎症、湿疹が起きた	・乾燥でアトピーが悪化したため、他の石鹸に変更したらきれいに治った。	20代	女性
	・いつも使っている石けんだったが、体調の変化によるものが突然湿疹が出た。1週間後にもう1度同じ石けんを使ってみると今度は湿疹は出なかった。	20代	女性
刺激を感じた	・いつもと違うメーカーの石鹸で洗顔をしたところ、皮膚がヒリヒリした。おそらく、刺激の強い石鹸を用いた、もしくは、皮膚表面に小さな傷があったと考えられる。	20代	男性

## 主な事例 石けん（液状・乳状）

項目	内容	年齢	性別
痒くなった	・浴室で固形石鹸をずっと使用していたが4年ほど前に液状石鹸（ボディソープ）に変えたら痒みがでた。再び固形石鹸に戻したら治った。	30代	男性
	・ボディシャンプーを使用すると痒くなる。（シャワーですすいでも落ちた気にならない。）乾燥した翌日とかになるとかゆみがでてくる。	20代	女性
かぶれた	・数年前に液体石鹸（名前を覚えていない）を利用中にかぶれがひどくなり医者にかかった。固形石鹸を利用したら元に戻った。それ以後、どこのメーカーの液体石鹸は利用していない。	40代	男性
	・肌にやさしそうな名前なので使っていたが、冬になると肌がかぶれるので無添加のものに替えたら、症状が治まった。	50代	男性
	・手軽さから日常使用しているが、うっかりすると指の間に石鹸が残っていて皮膚がかぶれたり、ただれたりした。「きれいきれい」という製品。あとピオレは特につきつく感じる。	40代	女性
炎症、湿疹が起きた	・いつも使っている子供用のものがたまたま切れていたの、大人と同じボディソープを使ったら、湿疹ができた。ピオレ。	30代	男性
痛くなった	・液状の石鹸を使うと泡立ちがよく、便利だと思っていつもの固形石鹸から替えたら体全体にビリビリとした痛みが出た。もともと敏感肌なのもあるが、数回使っても同じだったので、いつもの石鹸に替えたら痛みはなかった。それ以降ピオレ製品は石鹸に限らず使用していない。	20代	女性
荒れた、ばさついた	・液状石鹸を使うと、肌がかさかさする。固形石鹸だと問題なかった。	30代	男性
発疹が出た	・ボディシャンプーを別のものに変えたら、発疹が出た。すぐ、使用を中止した。	40代	男性

## 主な事例 シャンプー

項目	内容	年齢	性別
痒くなった	・異なるシャンプーを混ぜて使用してしまった為に痒みが発生したと思う。	40代	男性
	・五年程前に、それまで使用していたのは違う新しいシャンプーを買って使いはじめたら、かゆみとフケがすごくなった。初めはシャンプーのせいとは思わずに使い続けていたが、あまりにも酷いので使用をやめたら（銘柄をかえたら）しばらくしておさまった。資生堂の椿。	20代	女性
	・自分の体質に合わなかったらしく、かゆみがひどく頭皮がめくれて血が出てしまった。受診して、塗り薬を処方された。薬を塗り、そのシャンプーの使用を止めたら、治った。	30代	女性
	・市販のシャンプーを使っていたらかゆみが出たので、1回で使う分量を調節したらかゆみがなくなった	30代	女性
	・古いシャンプーを使ったら後で猛烈にかゆみが生じたが、洗い直したら改善したので、病院には行っていない。	30代	女性
	・3年前、宣伝を見てヴィダグサソンのシャンプー・リンスをセットで使った。髪が乾き始めたころから猛烈にかゆみが出、直ぐにお湯でもう一度洗い流したが、かゆみは消えず、翌朝頭皮に湿疹用の吹き出物が沢山出来たため、自分には合わないと判断し、そのセットは廃棄した。それ以来使わない。	50代	女性
	・皮膚が弱いので、素手でシャンプーをしているうちに、痒みを伴う細かいぶつぶつの湿疹が手のひら全体に出来た。ビニールの手袋をして洗うようにしたところ、今までのようなひどい状態ではなくなった。	50代	女性
かぶれた	・いつもと違うシャンプーを使うとかぶれやすい。特に体調が優れないときにかぶれることが多い。海外製品など香料が強いものでなることが多いが製品名は覚えていない。	20代	女性
	・乾燥する季節にシャンプーをつかったら頭皮がかぶれた。一週間かぶれがつつくので医療機関からすすめられた固形石鹸を使用したところ症状が軽くなった。ラックスというシャンプーだった	20代	女性
	・冬になると後ろ髪の生え際がかぶれることが多い。しっかり洗い流したり、首にシャンプー類が触れないようにしたら改善した。	20代	女性
	・顔がかぶれ、皮膚科に行ったらシャンプーのせいだといわれた。	30代	女性
炎症、湿疹が起きた	・いつも使っているシャンプーをやめたら湿疹が治った。	20代	男性
フケが出た	・3～4年前シャンプーを変更したところ、特別フケ症でもなかったのに急にフケが異様にできるようになったので10日程で変更したところ治った。	30代	男性
荒れた、ばさついた	・数年前、使用していたシャンプーは、使い続けていたら手荒れがひどくなったので、別の刺激の少ないものにした。メリットとスーパーマイルド。	40代	女性
刺激を感じた	・新しいシャンプーを試したら、頭皮がチクチクする感覚が日に日に強まった。	50代	男性
皮がむけた	・うちは色々試すほうなので、何のシャンプーかはわかりませんが、2年前に使用していたシャンプーで何度か洗髪したら、頭皮が日焼け後の皮みたいに大きいサイズでペロペロはがれてきた。	30代	女性

## 主な事例 リンス・トリートメント・コンディショナー等

項目	内容	年齢	性別
痒くなった	・シャンプー後に毎回リンスをする。大分前のことだが、リンスをしてよくすすぎをしないしていると首の付け根や耳の前辺りにかゆみが生じることがあった。よくぬめりをすすぎ落とすようにして解決した。	50代	女性
発疹が出た	・シャンプーかコンディショナーの洗い残しがあったのか、背中ににきびが沢山できてしまった。洗髪後、注意して体にもよく洗い流すようにしたら、だんだん収まって来た。	40代	女性
かぶれた	・自然派のリンスを以前から利用していて、妊娠中期以降急に手がかぶれるようになった。	40代	女性
炎症、湿疹が起きた	・いつも使っていた「いち髪コンディショナー」で季節の変わり目になって背中に湿疹が出たので使用を中止したら湿疹が治った。	30代	女性

主な事例 入浴剤

項目	内容	年齢	性別
痒くなった	・ シャワーで洗い流さなかったら全身がかゆくなった。	20代	男性
	・ 10年くらい前、入浴後、体中がかゆくなるようになり、入浴剤を入れた時だけそうなる事に気が付く。その頃まではよく入浴剤を使用していた。(メーカー等限定無し)	40代	男性
	・ 誤って、固形の入浴剤で、軽石代わりに直接体をこすってしまった。かゆみが発生したが、時間とおさまった。	40代	男性
	・ 入浴後、シャワーで流さずにしていたら、痒くなった。	30代	女性
発疹が出た	・ 何かのイベントでもらった、普段使わない入浴剤をお風呂にいれた。花の種のような紙っぽい入れ物だったので、一度に使ってしまおうと全部入れたら、風呂上りに、肌がひりひりし、あわてて、シャワーで流したが赤い発疹のようなものができ、しばらくひりひりして痛かった。	30代	女性
炎症、湿疹が起きた	・ 頂いた入浴剤を使用したら、全身に湿疹が出てしまい、皮膚科へ行きました。すぐに使用を中止したら、二三日で治まりました。会社は覚えていませんが、温泉成分が入っているという入浴剤でした。	30代	女性
刺激を感じた	・ しょうが成分や唐辛子成分の入った入浴剤で、肌がビリビリして入っていられなかったことがある。お湯から出ればすぐにおさまった。しょうがの入浴剤はスクラブとしても使用可能なもので、肌に塗った時は不快感はなかった。(株)B&Cラボラトリーズの「ジンジャラー ホットスクラブ」という商品だった。唐辛子成分の入浴剤は覚えていない。	40代	女性
痛くなった	・ 塩の入浴剤にオイルを何滴か入れて入浴したさい、ビリビリとした刺激を受け、入っていられないほど痛みがひどくなった。真水で洗うと収まりましたが、そのあとの保湿には気を付けた。	30代	女性

主な事例 お風呂用洗剤

項目	内容	年齢	性別
かぶれた	・ 使用していた手袋の中に洗剤が入ってしまったのをそのまま作業を続けていたら、かぶれてしまった。	50代	男性
痒くなった	・ 3～4年前に壁面にスプレーして汚れを防ぐ洗剤を使用。皮膚のかゆみと、目の刺激、胸の不快感を感じた。2～3日後に壁面をよく水洗いしたら、症状は治まった。品名は忘れてしまった。	40代	女性
炎症、湿疹が起きた	・ ダイソーで試しにお風呂用クリーナーを買って使ってみたところ、手に湿疹が出来た。前に使っていたバスピカに戻したところ、湿疹はおきなかった。製品名はダイソーの風呂用クリーナーでした。	50代	男性
赤くなった	・ ゴム手袋が切れたので素手で掃除したら手が赤くなってひりひりした。	40代	女性
	・ 特に気にせず特売だったので買ったルックお風呂の洗剤だが、浴槽を洗っている時は何でもなかったが、さすがに不十分だったらしく、お水を張ってお風呂を沸かし入った後からだが赤くヒリヒリしてしまった。以後お風呂を洗う時には洗剤を使っていない。	50代	女性
皮がむけた	・ ゴム手袋をしなくてスポンジに洗剤を付けて、風呂場を掃除しました。お湯を使ったためか、手の皮がむけた。	20代	男性
その他	・ つけ置き洗いで、母がお風呂に洗剤をいれておいたの知らずに、子供のころ、その風呂用洗剤入りのお水で顔を洗った。	40代	女性

主な事例 カビ取り剤

項目	内容	年齢	性別
かぶれた	・市販の強力タイプの浴室用のカビ取り剤を使っていたら、皮膚が溶けているようなヌメヌメ感がなかなかとれなかった。少しかぶれも出た。	30代	男性
	・液がスポンにこぼれたのに気が付かず30分ほど接触したままになっていた様で、激しくかぶれた。医師による診断と処方（それぞれ一回だけ）により回復し、以降はかぶれは出ていない。	30代	男性
	・カビ取り剤を使って浴室の掃除を素手でした後に、手の指がひどくかぶれてしまった。数日しても治らなかったので医療機関に診てもらいステロイド剤と保湿剤を処方してもらった。	30代	女性
	・製品名はおぼえてませんが、普通の日本製のカビ取り剤です。ビニール手袋の指先に穴が空いていたので、入り込んでしまい、かぶれました。数日したら治りました。	30代	女性
	・お風呂のカビとりをしていた時、ゴム手袋が破れたことに気づかずにいたら、薬液がしみ込んでいて、赤くかぶれた。確か、カビキラーだった。	50代	女性
荒れた、ばさついた	・注意書きに手袋着用と書いてあったのに、急いでいたので素手で使用した。指先の皮膚が触れてしまい、荒れてしまった。カビキラーを使用した。	20代	女性
	・スプレー式で液だれがしないはずだが、持っている手に流れてくる。触ったところがかさかさする。	40代	女性
	・使用する際、手に付かないようスプレーしているつもりだが、手袋を使わずにブラシ等で直接手に触れないようにしても、跳ね返りからか手が荒れてしまう。	50代	女性
痒くなった	・入浴中に洗い場の気になったところをカビキラーのスプレーをかけて数分放置。浴槽に私はいたので洗い場は肌が触れないかと思っていたのですが、流すのが甘く足の裏に液が少し付き痒くなった。	30代	女性
	・初回のスプレーがすごく広がって顔にかかったのですが、赤くなりかゆみが出ました。すぐに洗い流しましたが、すごく不安でした。	30代	女性
炎症、湿疹が起きた	・手動のスプレータイプの製品で、栓（止まる 開く）の位置が中途半端だったため、スプレー口から漏れた原液が直接手に触れ、軽い炎症となった。すぐに容器を持った手のままで容器ごと洗い流したため、大事には至らなかった。	30代	男性
	・カビ取り剤で指先が溶けるような感じになった。	50代	男性
	・3年前くらいに手袋、マスクをせずカビキラーを使った。口のまわりに湿疹が出て皮膚科受診。症状が治まるまで約半年かかった。	50代	女性
刺激を感じた	・素手でカビ取り剤を使ったとき、1週間ほど指先にピリピリとした刺激を感じた。それ以来、ゴムまたはビニール素材の手袋を使うようになった。	30代	男性
	・浴室の床や壁にカビ取り剤をスプレーした後、シャワーで洗い流したが充分でなかったせいか、次に浴室を使った際に、足の裏に刺激を感じた。カビキラーという商品だった。	30代	女性
指紋がなくなった	・カビ取り剤で掃除中、手に付着したまま掃除していたら終わった後皮がぼろぼろになってしまった。数日で元に戻った。	20代	男性
	・去年の掃除の際に、ゴム手袋をせずに「カビキラー」を使っていると、手についた。少量だったので、数分間の間洗わないで放置していたら、皮膚が張っているような違和感を覚えた。触るとつるつるとしていた。数日後に治まった。	20代	男性
	・アルカリ性カビ取り剤で、注意書にゴム手袋使用を促す注意書きがあったが、それでは作業が満足に行えないので、素手で扱い指紋が消えた。	50代	男性
	・ゴム手袋を使わずに使用した時、指紋が無くなるような感じがあり良く洗い流したら、手がかさかさになった。	50代	女性
赤くなった	・強力なことは分かっていたのに、素手で噴射しスポンジでこすっていたら、掃除後に手指全体がひりひりして、指先はちょっと火傷のように赤くひりひりしました。	50代	女性

## (5) 風呂場でのアロマキャンドルによるヒヤリ・ハット及び危害について

### ア. 風呂場でのアロマキャンドルの使用の有無

(全体)

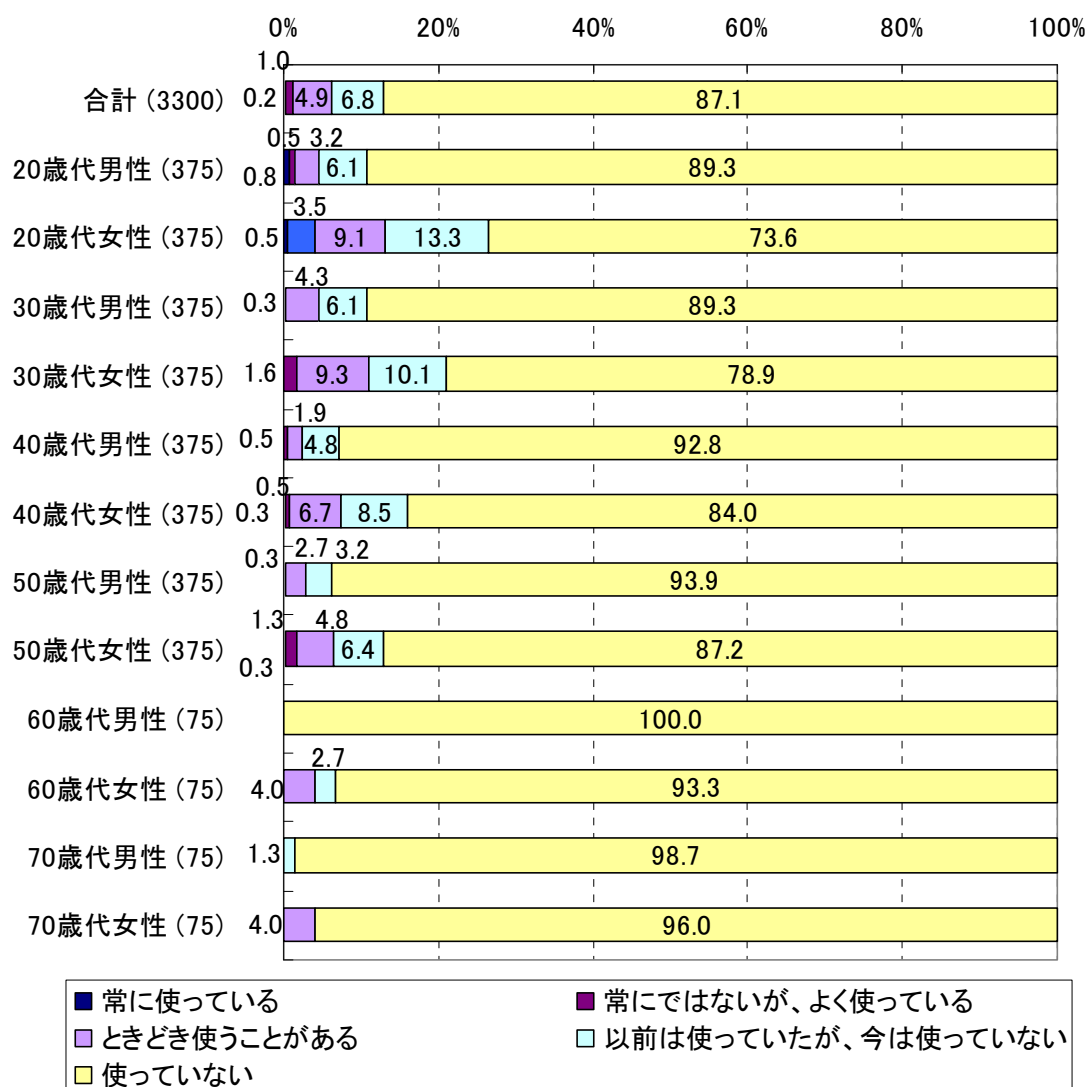
自宅風呂場でのアロマキャンドルの使用については、「使っている」は6.1%（「常に使っている 0.2%」「よく使っている 1.0%」「時々使う 4.9%」の合計）、「以前は使っていた（今は使っていない）」が6.8%、「使っていない」が87.1%であった。

(年代別)

アロマキャンドルを「使っている」割合は年代が上がるほど少なくなり、20歳代では8.8%であるが、50歳代では4.7%となる。

(性別)

アロマキャンドルを「使っている」割合はいずれの年代においても女性が男性の2～3倍となっている。



イ. 風呂場でのアロマキャンドルによるヒヤリ・ハット/危害の経験の有無

回答者は、風呂場でアロマキャンドルを使っている 196 名と以前使っていた 220 名の計 416 名（全回答者の 13.9%）

（全体）

自宅風呂場でアロマキャンドルによるヒヤリ・ハット/危害経験が「ある」とした割合をケース別に見ると、「アロマキャンドルを入れていた容器が熱くなった」で 36.5%となっており最も多い。

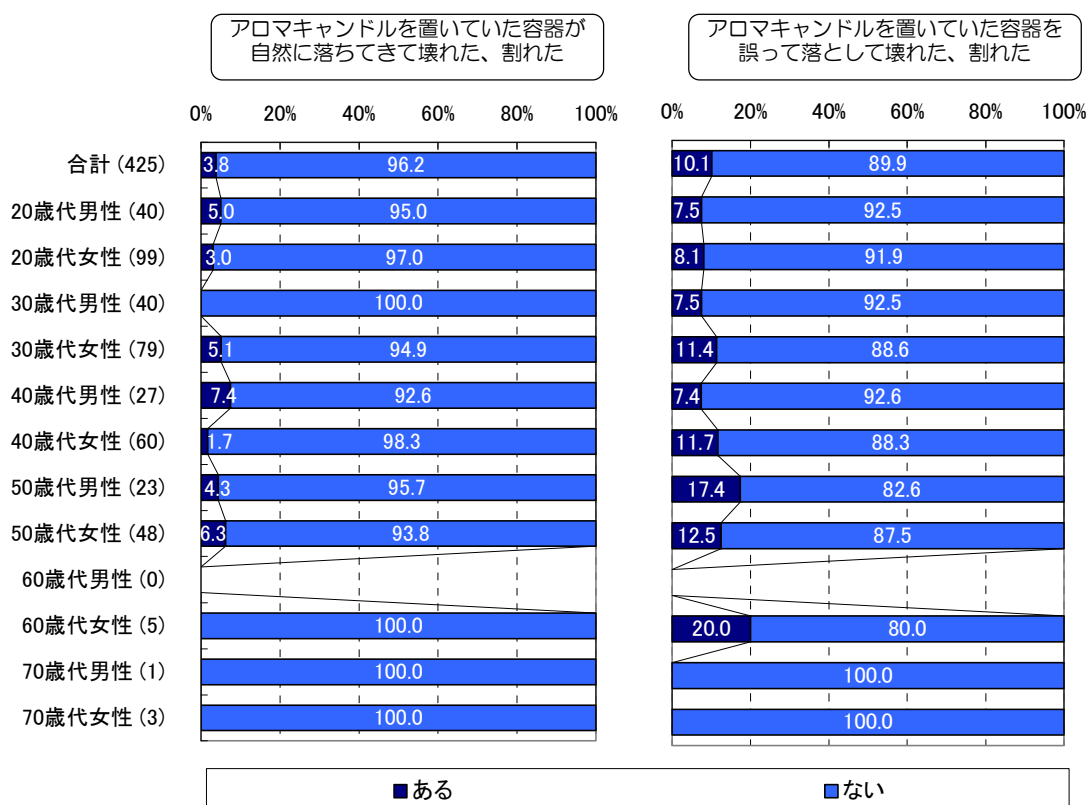
これ以外のケースでのヒヤリ・ハット/危害経験はいずれも 15%未満であるが、多い順に「アロマキャンドルを消し忘れた」（14.8%）、「アロマキャンドルを置いていた場所が熱くなった、焦げた、溶けた」（14.1%）、「アロマキャンドルを置いていた容器を誤って落として壊れた、割れた」（10.1%）、「アロマキャンドルを置いていた容器が自然に落ちて壊れた、割れた」（3.8%）であった。

（年代別）

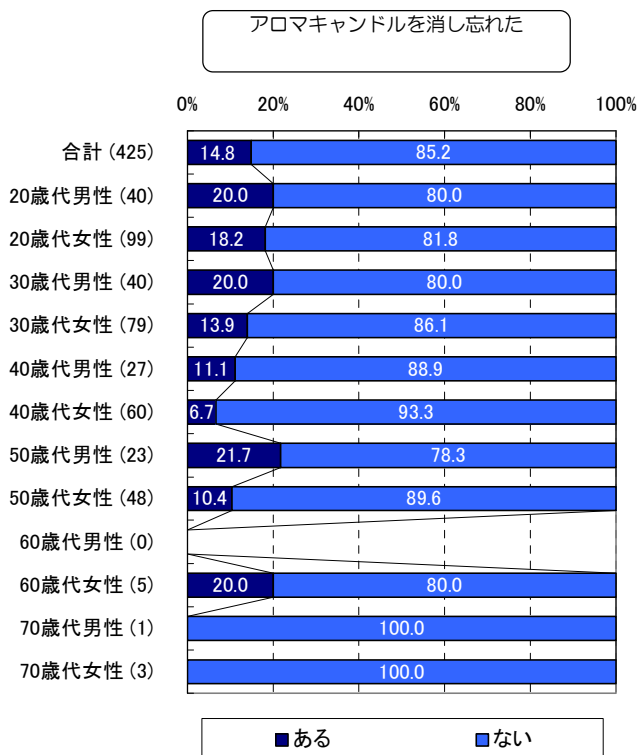
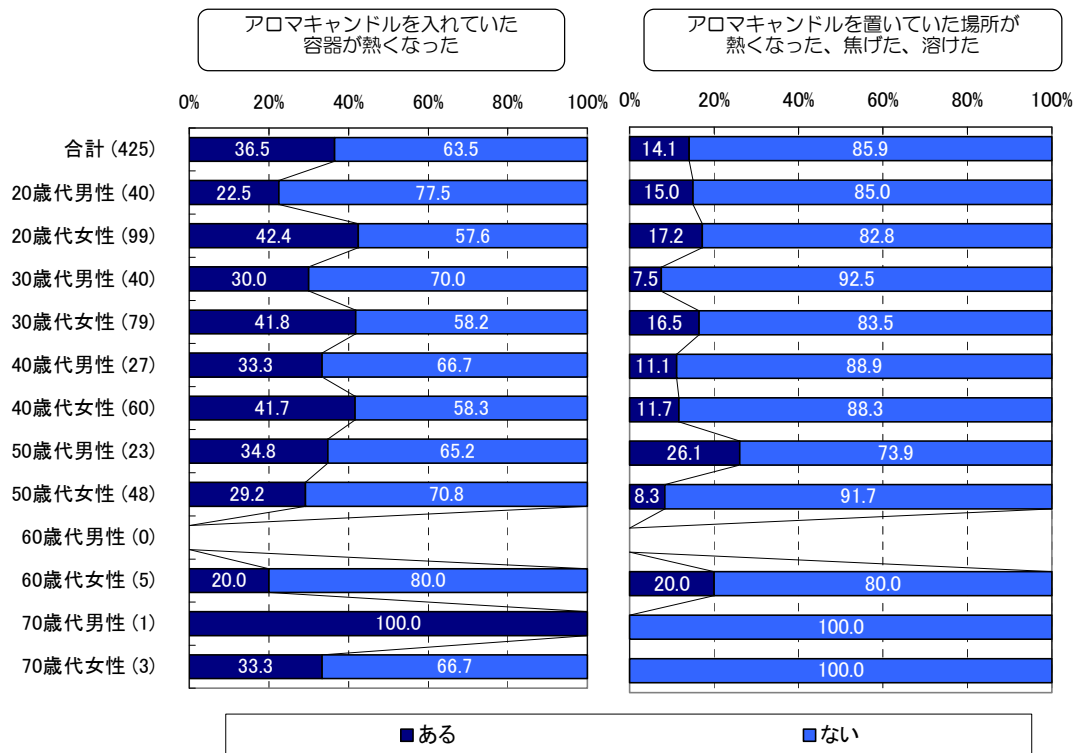
多くの年代「アロマキャンドルを入れていた容器が熱くなった」が 30%を超えており最も多い。

（性別）

アロマキャンドルによるヒヤリ・ハット/危害経験の割合は、20～40 歳代までは概ね女性の方が多いが、50 歳代になると逆にほとんどのケースにおいて男性の方が多くなる。



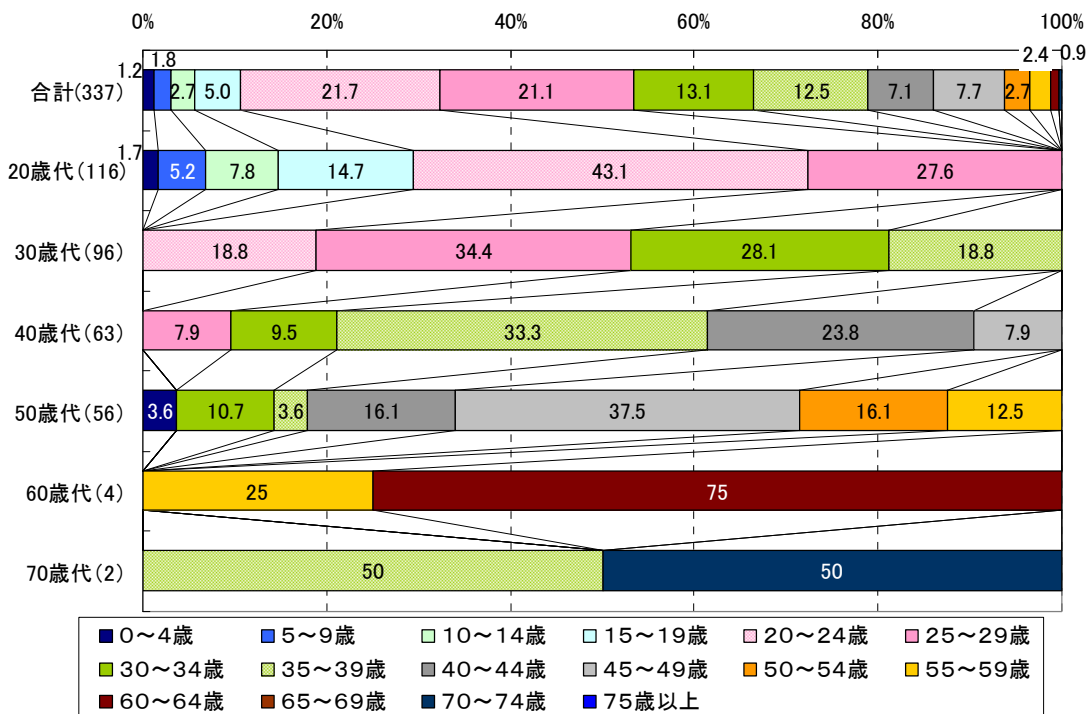




ウ. 風呂場でアロマキャンドルによるヒヤリ・ハット/危害の経験をしたときの年齢  
 回答者は、風呂場でアロマキャンドルによる何らかのヒヤリ・ハット/危害経験を  
 した 203 名（全回答者の 6.2%）  
 ヒヤリ・ハット/危害経験件数は延べ 337 件

（年代別）

ヒヤリ・ハット/危害の延べ件数を対象に、経験時年齢として回答者が属する年代  
 を挙げた割合を見ると、20 歳代では 70.7%（「20～24 歳 43.1%」「25～29 歳 27.6%」の  
 合計）であるが、年代が上がるにつれてその割合は減って、50 歳代では同割合は  
 28.6%（「50～54 歳 16.1%」「55～59 歳 12.5%」の合計）となる。  
 アロマキャンドルによるヒヤリ・ハット/危害経験は、年代が上がるにつれて過去  
 の経験としての意味合いが強くなっていくものと思われる。



## エ. 風呂場でのアロマキャンドルによるヒヤリ・ハット／危害の状況

回答者は、風呂場でアロマキャンドルによる何らかのヒヤリ・ハット／危害経験をした 197 名（全回答者の 6.6%）

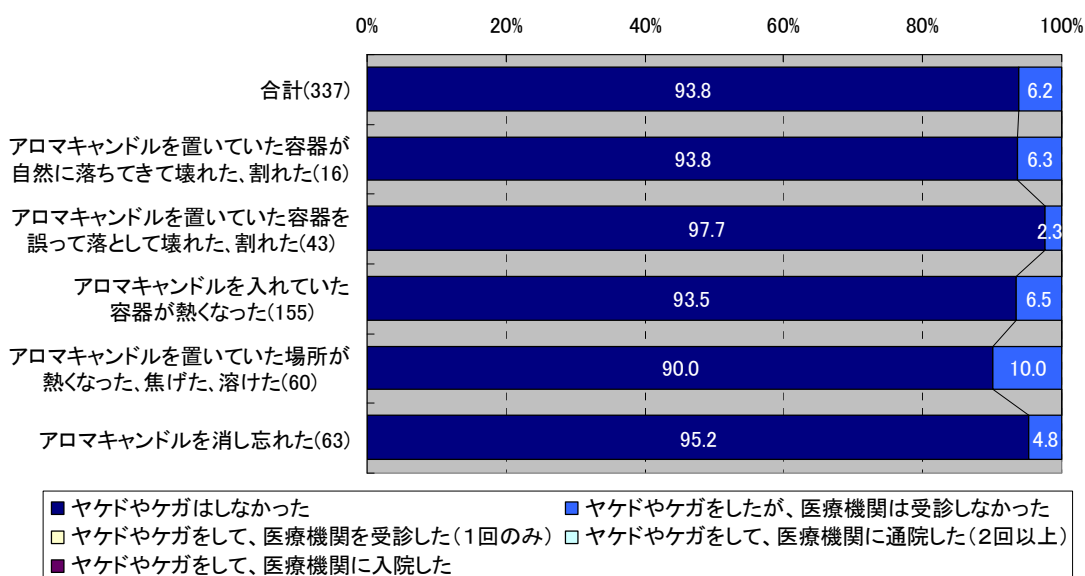
ヒヤリ・ハット／危害経験件数は延べ 331 件

（全体）

風呂場でのアロマキャンドルを原因とするヒヤリ・ハット／危害の状況としては、「ヤケドやケガをした」は 6.2%、「ヤケドやケガはしなかった」が 93.8%であった。

「ヤケドやケガをした」6.2%（21 件）の危害レベル別内訳を見ると、「医療機関は受診しなかった」が 6.2%（21 名）で、「医療機関を受診（もしくは入院）」はなかった。

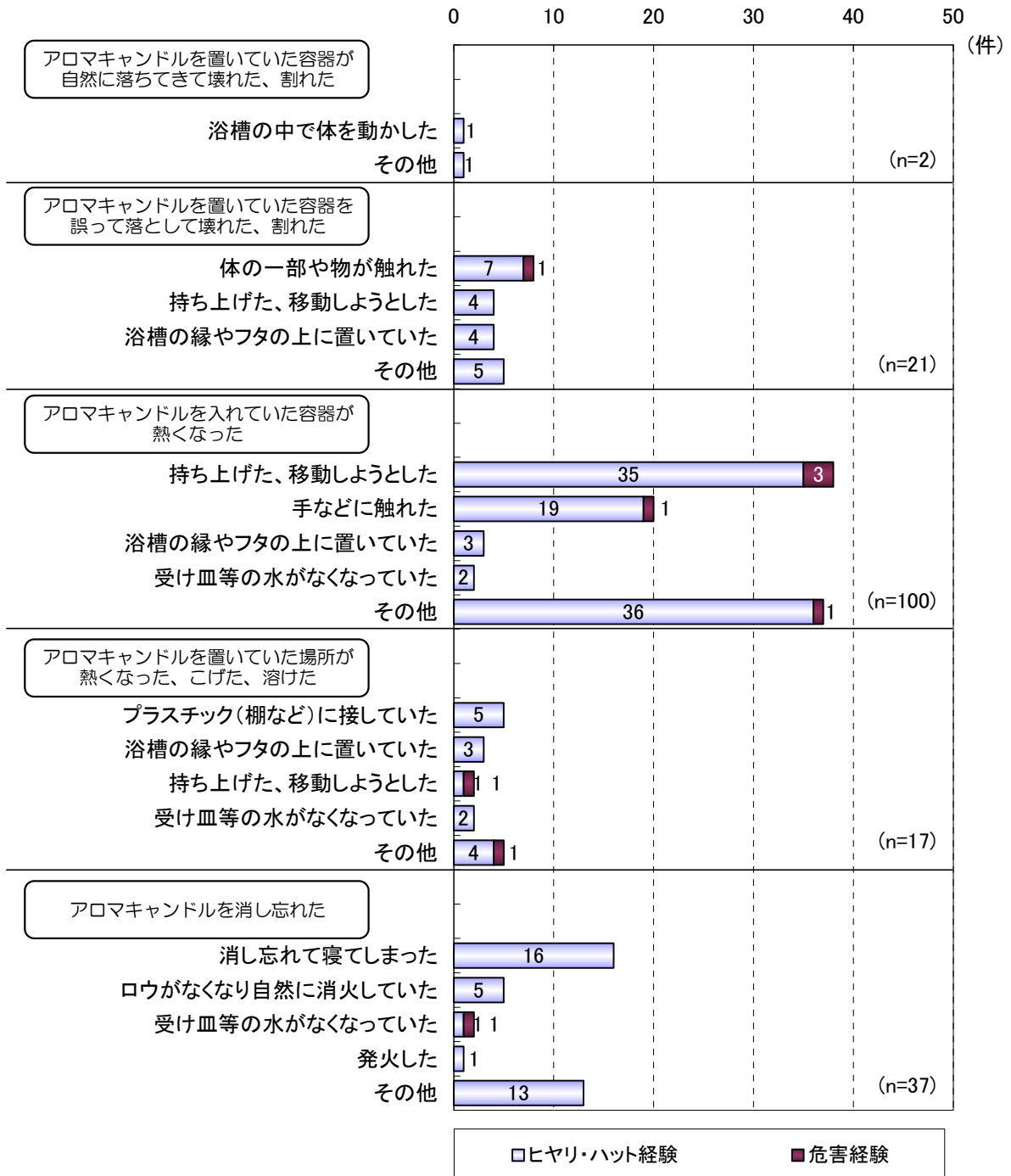
ケース別に見ると、「ヤケドやケガをした」割合は「アロマキャンドルを置いていた場所が熱くなった、焦げた、溶けた」ケースが 10.0%で最も多く、他のケースでは若干～6%前後であった。



オ. ヒヤリ・ハット／危害経験時の状況(自由回答)

集計対象は、風呂場でのアロマキャンドルによるケガ、ヤケドのヒヤリ・ハット／危害経験に関する記述回答 177 件

風呂場でのアロマキャンドルによる「ケガ、ヤケド」のヒヤリ・ハット／危害経験



ケース別では、「アロマキャンドルを入れていた容器が熱くなった」が最も多く、100件、次いで「アロマキャンドルを消し忘れた」が37件であった。

内容別に分類すると、アロマキャンドルを「持ち上げた、移動しようとした」ときに落として割れたという例、容器に触れてヤケドをしたという例が多い。火を消した直後は予想以上に容器が熱くなっているため、片づけるときなどは注意が必要である。また、容器がガラス製の場合、入浴中に割れるとケガのおそれがある。

「アロマキャンドルを置いていた場所が熱くなった、こげた、溶けた」ケースでは、置いていたプラスチック製の棚が熱で溶けた事例があった。「アロマキャンドルを消し忘れた」ケースでは、消し忘れて寝てしまったが特に問題は起きなかったという例が大部分だが、なかには、留守中に発火していた事例もあった。

#### 主な事例 アロマキャンドルを置いていた容器が自然に落ちてきて壊れた、割れた

項目	内容	経験時年齢	性別
浴槽の中で体を動かした	・ 半身浴をしているときにお風呂の中で動いたら衝撃で落ちた。	30～34歳	女性

#### 主な事例 アロマキャンドルを置いていた容器を誤って落として壊れた、割れた

項目	内容	経験時年齢	性別
体の一部や物が触れた	・ お風呂から上がる時バスタオルがキャンドルにぶつかって落ちてガラスが割れた。	25～29歳	女性
持ち上げた、移動しようとした	・ キャンドルを置いたのが足つきのガラス製のもので、そもそも座りが悪かった。横着して湯船に入りながら位置をずらそうとしたら、洗い場に落としてしまい割れた。片づける際にケガはありませんでしたが、濡れたガラスの破片を集めて捨てるのはとても大変でした（乾いたものなら掃除機で吸い取れるのですが...）。	30～34歳	女性
浴槽の縁やフタの上に置いていた	・ 浴槽のふたの上に置いたガラスの容器に腕が触れ、浴槽の外に落として割れてしまった。自分は浴槽内にいたので怪我はなく、割れた容器も問題なく片付けることができた	25～29歳	女性

#### 主な事例 アロマキャンドルを入れていた容器が熱くなった

項目	内容	経験時年齢	性別
持ち上げた、移動しようとした	・ アロマキャンドルを移動しようと容器を持ったところ、思ったより熱く、手をやけどをしてしまった。	15～19歳	男性
	・ 中のキャンドルがずれて容器の縁に近づいていたのに気付かず、アロマキャンドルを入れた陶器を手に取ったところ、熱くなった容器で火傷しそうになった。	45～49歳	男性
手などに触れた	・ アロマキャンドルの扱いに慣れていなかった頃、容器に熱がこもっていることと知らず素手で触ってしまった。思わずキャンドル容器を落としそうになった。	50～54歳	女性
浴槽の縁やフタの上に置いていた	・ 浴槽の縁に置いて使用していたキャンドルのガラス製の器が熱くなっていたのに気付かず、火傷をしそうになった。	45～49歳	女性
受け皿等の水がなくなっていた	・ アロマキャンドルの受け皿の水がなくなっており、焦げ目があったので、あわてて水で洗おうとしたところ、温度差が激しく、受け皿にひびが入った。陶器製のものであった。	35～39歳	女性
その他	・ アロマキャンドルが傾いていて、火が容器に直接当たっていた。	25～29歳	男性

主な事例 アロマキャンドルを置いていた場所が熱くなった、こげた、溶けた

項目	内容	経験時年齢	性別
プラスチック（棚など）に接していた	・ いつのまにか火が棚の上部についていて、溶けてしまった。	20～24歳	女性
	・ アロマキャンドルを置いていた容器が小さくて、ろうが溶けてあふれ出て、置いていたプラスチックが溶けた。	20～24歳	女性
	・ アロマキャンドルにお湯がかからない様に高い場所に置きたいと思い、吸盤式の棚（プラスチック製）を設置し その上に置いていたら棚が溶けていた。	40～44歳	女性
浴槽の縁やフタの上に置いていた	・ 消灯して、キャンドルは浴槽の端に寄せた蓋の上に置いた。蓋に体があたり、キャンドルが傾き、ろう液がこぼれて蓋が少し溶けた。	25～29歳	女性
	・ 半身浴の際浴槽の蓋を半分して本屋飲み物などと一緒に置いておいたため熱くなり近くにあった本を焦がした。	20～24歳	女性
持ち上げた、移動しようとした	・ お風呂から出ようかなと思って、火を消してキャンドルを手にとったら予想以上に熱かった。浴槽が少し溶けていた	25～29歳	男性
受け皿等の水がなくなっていた	・ 水が無くなっている事に気づかず、電源が入りっぱなしだった。焦げ臭いニオイがして、気づいた。怪我などはしていない。	20～24歳	女性

主な事例 アロマキャンドルを消し忘れた

項目	内容	経験時年齢	性別
発火した	・ アロマキャンドルを消し忘れていて家へ帰ったら、部屋中煙だらけで出火していた。	10～14歳	女性

## 4. まとめ

東京都に在住する 3300 人を対象に、浴室用品等による危険について調査を行った。

- (1) マット・スノコの利用者の半数以上が「滑り防止」を期待して敷いているにもかかわらず、利用者の 3 割程度がマット・スノコによるヒヤリ・ハット及び危害を経験している。
- (2) 入浴剤の利用者の 1 割以上が、入浴剤による滑り・転倒などのヒヤリ・ハット及び危害を経験している。
- (3) 12 歳までの子供と同居する回答者の 4 割以上が、子供の浴室での滑り・転倒を経験している。経験した年齢は 1～3 歳が 6 割を超えている。
- (4) 石鹸や洗剤などのうち、かぶれや炎症などの皮膚障害は、カビ取り剤が 14% と最も経験者が多かった。
- (5) 浴室でのアロマキャンドルによるヒヤリ・ハット及び危害経験は、容器が熱くなっていた事例が最も多く、移動させようと持ち上げたり誤って手が触れたりした際に発生していた。

## 5. 結果の活用

- (1) 浴室等での事故を防止するためのポイントをまとめた「お風呂・トイレの危険事故防止ガイド」により、都民へ情報提供する。
- (2) 収集したヒヤリ・ハット体験を蓄積し、安全性に関する調査実施時に活用を図る。
- (3) 業界団体等へ調査結果を情報提供する。